

平成 29 年度研究科アンケートの結果について

1. 成果について

(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。

	とてもなった	まあまあなった	あまりならなかった	ほとんどならなかった
平成 29 年度	68(63.6%)	39(36.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)
平成 28 年度	51(50.0%)	46(45.1%)	2(2.0%)	0(0.0%)
平成 27 年度	75(67.0%)	32(28.6%)	1(0.9%)	0(0.0%)
平成 26 年度	63(59.4%)	37(34.9%)	1(0.9%)	0(0.0%)
平成 25 年度	51(44.7%)	58(50.9%)	5(4.4%)	0(0.0%)

(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

	とても	少し	変わらない	あまり	ほとんど
平成 29 年度	44(41.1%)	31(29.0%)	15(14.0%)	11(10.3%)	5(4.7%)
平成 28 年度	38(37.3%)	38(37.3%)	14(13.7%)	6(5.9%)	1(1.0%)
平成 27 年度	49(43.8%)	41(36.6%)	14(12.5%)	6(5.7%)	0(0.0%)
平成 26 年度	47(44.3%)	29(27.4%)	18(17.0%)	3(2.7%)	0(0.0%)
平成 25 年度	43(37.7%)	34(29.8%)	27(23.7%)	6(5.3%)	4(3.5%)

(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

	すごく薦める	やや薦める	どちらとも	あまり薦めない	全く薦めない
平成 29 年度	38(35.5%)	43(40.2%)	20(18.7%)	3(2.8%)	3(2.8%)
平成 28 年度	20(19.6%)	59(57.8%)	14(13.7%)	4(3.9%)	2(2.0%)
平成 27 年度	38(33.9%)	57(50.9%)	13(11.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
平成 26 年度	29(27.4%)	41(38.7%)	25(23.6%)	2(1.9%)	4(3.8%)
平成 25 年度	15(13.2%)	36(31.6%)	43(37.7%)	8(7.0%)	5(4.4%)

※「自分のためになった」という問いについては、「とてもなった」という院生が増加し、否定的回答は皆無となった。力量形成について成果があったと評価できるが、「教員になりたい(続けたい)」という問いについて、現職教員院生で「あまり」という回答が2名あったが、それ以外の否定的回答は学部新卒院生である。教員になることへの意欲を高めることも考える必要がある。他の人に薦めるかどうかについても平成28年度と同様に、否定的な回答も見られる。カリキュラム、授業内容、施設面での不満が考えられる。

2. カリキュラムについて

(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

	期待以上	まあまあ期待通り	少し期待はずれ	全く期待はずれ
平成 29 年度	35(32.7%)	59(55.1%)	11(10.3%)	2(1.9%)
平成 28 年度	24(23.5%)	62(60.8%)	15(14.7%)	0(0.0%)
平成 27 年度	50(44.6%)	58(51.8%)	4(3.6%)	0(0.0%)
平成 26 年度	28(26.4%)	65(61.3%)	13(12.3%)	0(0.0%)
平成 25 年度	12(10.5%)	72(63.2%)	26(22.8%)	3(2.6%)

(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 29 年度	14(13.1%)	63(58.9%)	27(25.2%)	2(1.9%)
平成 28 年度	12(11.8%)	66(64.7%)	22(21.6%)	1(1.0%)
平成 27 年度	22(19.6%)	75(67.0%)	12(10.7%)	2(1.8%)
平成 26 年度	18(17.0%)	55(51.9%)	31(29.2%)	2(1.9%)
平成 25 年度	5(4.4%)	57(50.0%)	44(38.6%)	7(6.1%)

(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 29 年度	13(12.1%)	86(80.5%)	7(6.5%)	1(0.9%)
平成 28 年度	14(13.7%)	72(70.8%)	14(13.7%)	1(1.0%)
平成 27 年度	25(22.3%)	80(71.4%)	7(6.3%)	0(0.0%)
平成 26 年度	30(28.3%)	64(60.4%)	11(10.4%)	1(0.9%)
平成 25 年度	10(8.8%)	70(61.4%)	32(28.1%)	1(0.9%)

(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 29 年度	33(30.8%)	66(61.7%)	6(5.6%)	0(0.0%)
平成 28 年度	26(25.5%)	65(63.7%)	3(2.9%)	0(0.0%)
平成 27 年度	48(42.9%)	62(55.4%)	1(0.9%)	0(0.0%)
平成 26 年度	34(32.1%)	66(62.3%)	2(1.9%)	0(0.0%)
平成 25 年度	26(22.8%)	75(65.8%)	12(10.5%)	0(0.0%)

(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

	多かった	ちょうどよかった	少なかった
平成 29 年度	5(4.7%)	78(72.9%)	21(19.6%)
平成 28 年度	4(3.9%)	69(67.6%)	23(22.5%)
平成 27 年度	3(2.7%)	91(81.3%)	18(16.1%)
平成 26 年度	23(21.7%)	62(58.5%)	17(16.0%)

(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。

	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満
平成 29 年度	26(24.3%)	64(59.8%)	14(13.1%)	0(0.0%)
平成 28 年度	16(15.7%)	64(62.7%)	13(12.7%)	3(2.9%)
平成 27 年度	30(26.8%)	73(65.2%)	9(8.0%)	0(0.0%)
平成 26 年度	32(30.2%)	54(50.9%)	15(14.2%)	1(0.9%)

(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1 ストレートマスター対象)

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 29 年度	16(29.1%)	24(43.6%)	7(12.7%)	1(1.9%)
平成 28 年度	10(27.0%)	19(51.4%)	5(13.5%)	1(2.7%)
平成 27 年度	13(27.1%)	33(68.8%)	2(4.2%)	0(0.0%)

平成 26 年度	17(34.0%)	27(54.0%)	2(4.0%)	0(0.0%)
----------	-----------	-----------	---------	---------

(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2 ストレートマスター対象)

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 29 年度	13(25.0%)	22(42.3%)	8(15.4%)	1(1.9%)
平成 28 年度	11(22.9%)	29(60.4%)	3(6.3%)	2(4.2%)
平成 27 年度	23(48.9%)	18(38.3%)	6(12.8%)	0(0.0%)

※時間割に対する不満は、相変わらず大きい。また学部新卒院生からは、授業力高度化コースと生徒指導力高度化コースに分かれて、交流が少ないこと、両方の力量を高める必要性などが、自由記述で指摘されている。大学院改組、コース再編の検討の中で留意する必要がある。また授業のあり方についても、かなり具体的に批判がなされているので、シラバスや授業改善など、現行のコース、カリキュラムの中で改善できることはしっかりと取り組んでいきたい。

3. 院生への支援体制について

(12) 履修指導は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 29 年度	37(34.6%)	54(50.5%)	8(7.5%)	5(4.7%)
平成 28 年度	23(22.5%)	62(60.8%)	8(7.8%)	2(2.0%)
平成 27 年度	42(37.5%)	61(54.5%)	6(5.4%)	0(0.0%)
平成 26 年度	36(34.0%)	52(49.1%)	13(12.3%)	1(0.9%)
平成 25 年度	26(22.8%)	60(52.6%)	21(18.4%)	5(4.4%)

(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 29 年度	24(22.4%)	50(46.7%)	17(15.9%)	2(1.9%)
平成 28 年度	20(23.5%)	47(55.3%)	7(8.2%)	1(1.2%)
平成 27 年度	30(31.6%)	48(50.5%)	15(15.8%)	1(1.1%)
平成 26 年度	21(19.8%)	51(48.1%)	16(15.1%)	2(1.9%)
平成 25 年度	18(15.8%)	59(51.8%)	23(20.2%)	1(0.9%)

(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 29 年度	31(29.0%)	49(45.8%)	12(11.2%)	2(1.9%)
平成 28 年度	23(27.1%)	47(55.3%)	7(8.2%)	0(0.0%)
平成 27 年度	43(45.3%)	44(46.3%)	6(6.3%)	1(1.1%)
平成 26 年度	37(34.9%)	45(42.5%)	9(8.5%)	0(0.0%)
平成 25 年度	29(25.4%)	49(43.0%)	21(18.4%)	4(3.5%)

(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 29 年度	58(54.3%)	41(38.3%)	4(3.7%)	1(0.9%)
平成 28 年度	46(45.1%)	42(41.2%)	7(6.9%)	0(0.0%)

平成 27 年度	67(59.8%)	39(34.8%)	5(4.5%)	0(0.0%)
平成 26 年度	59(55.7%)	39(36.8%)	3(2.8%)	1(0.9%)

※就職支援体制、実習支援体制について、「あまり適切でない」という回答が増加している。院生・教員連絡協議会でその要因などを協議する必要がある。数値にはあまり表れていないが、ゼミ指導のばらつきや選択制への要望が自由記述で散見される。コースで共通理解をさらに図るとともに、院生にもゼミ体制についての理解をさらに求めていく必要がある。また事務局（室）への要望も自由記述で散見されるので検討を依頼したい。

4. 施設設備

(16)-1 教室の設備は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 29 年度	16(15.0%)	37(34.5%)	42(39.3%)	10(9.3%)
平成 28 年度	18(17.0%)	52(51.0%)	19(18.6%)	5(4.9%)
平成 27 年度	18(16.1%)	67(59.8%)	21(18.8%)	3(2.7%)
平成 26 年度	18(17.0%)	59(55.7%)	22(20.8%)	3(2.8%)
平成 25 年度	7(6.1%)	61(53.5%)	40(35.1%)	6(5.3%)

(16)-2 院生室の設備は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 29 年度	31(29.0%)	36(33.6%)	24(22.4%)	16(15.0%)
平成 28 年度	17(16.7%)	55(53.9%)	22(21.6%)	5(4.9%)
平成 27 年度	34(30.4%)	46(41.1%)	23(20.5%)	5(4.5%)
平成 26 年度	17(16.0%)	46(43.4%)	29(27.4%)	10(9.4%)
平成 25 年度	16(14.0%)	48(42.1%)	42(36.8%)	7(6.1%)

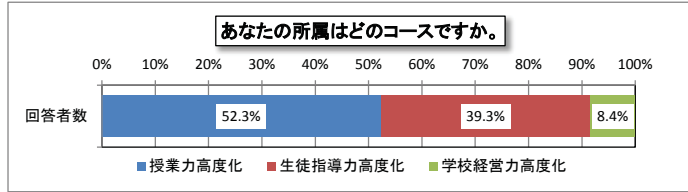
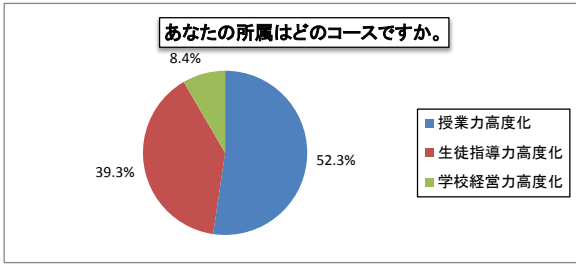
(16)-3 大学の設備は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 29 年度	10(9.3%)	48(44.9%)	39(36.5%)	10(9.3%)
平成 28 年度	11(10.8%)	51(50.0%)	35(34.3%)	2(2.0%)
平成 27 年度	34(30.4%)	46(41.1%)	23(20.5%)	5(4.5%)
平成 26 年度	17(16.0%)	46(43.4%)	29(27.4%)	10(9.4%)
平成 25 年度	7(6.1%)	54(47.4%)	45(39.5%)	8(7.0%)

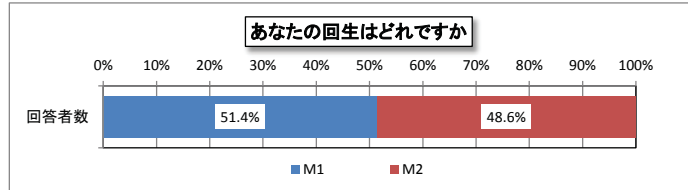
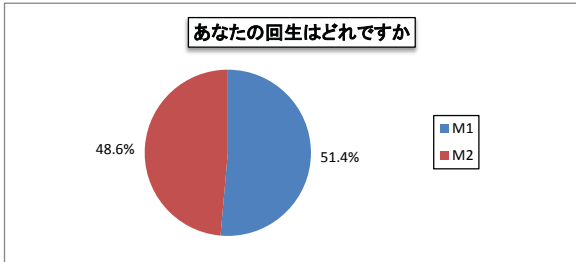
※施設、設備に対する不満は、相変わらず大きい。自由記述を見ると、院生室のパソコンに対する不満、要望がかなり多く記述されている。引き続き大学当局に要望するとともに、院生・教員連絡協議会で協議しながら、研究科内で改善できることには、いっそう取り組んでいく必要がある。

研究科アンケート(平成29年度 全体)

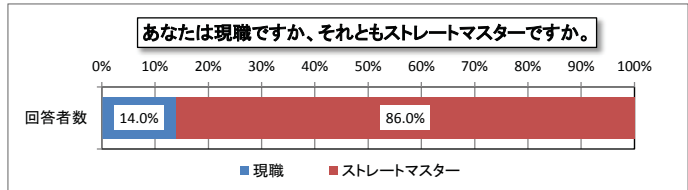
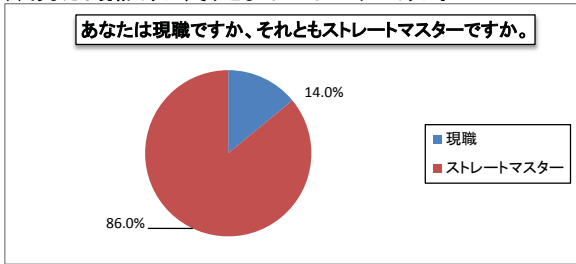
(1) あなたの所属はどのコースですか。



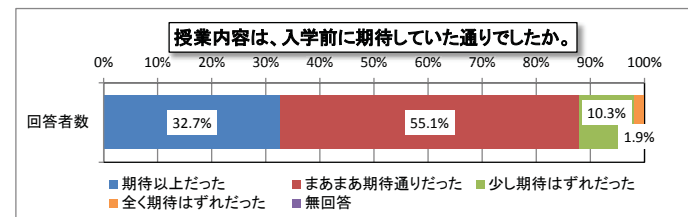
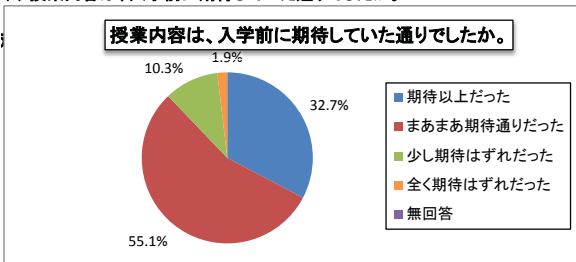
(2) あなたの回生はどれですか。



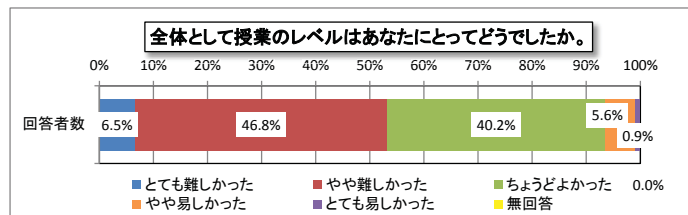
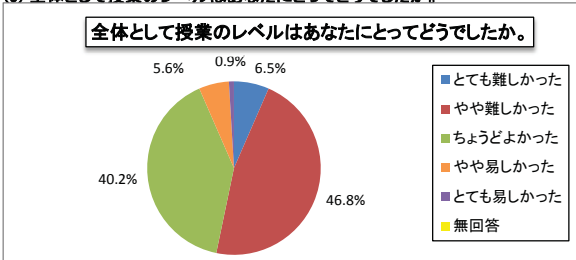
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

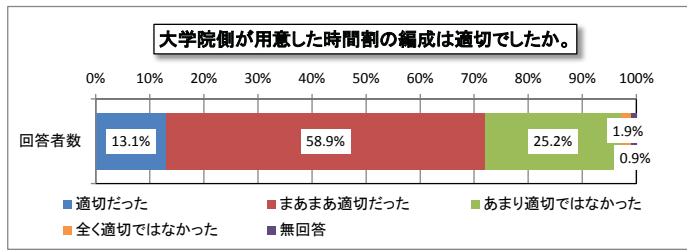
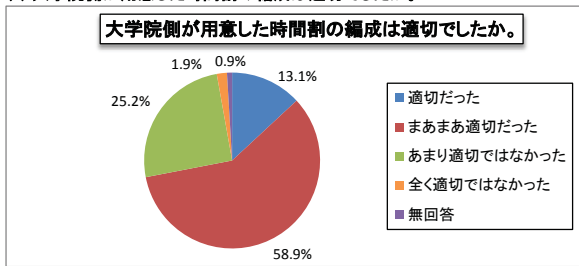


(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。

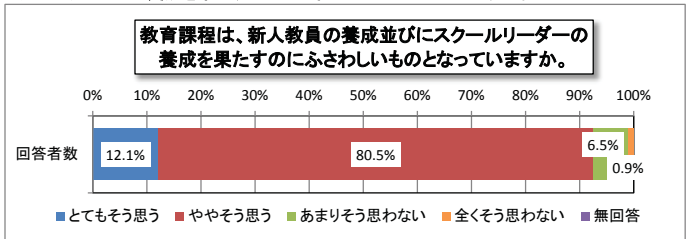
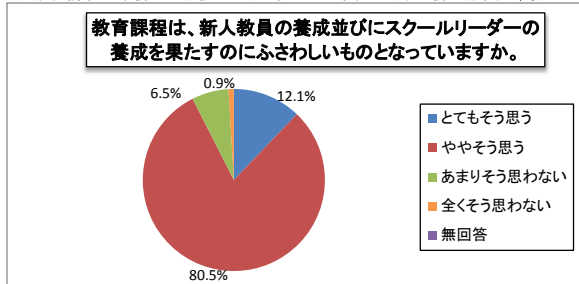


研究科アンケート(平成29年度 全体)

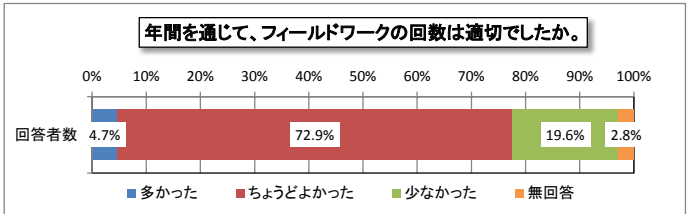
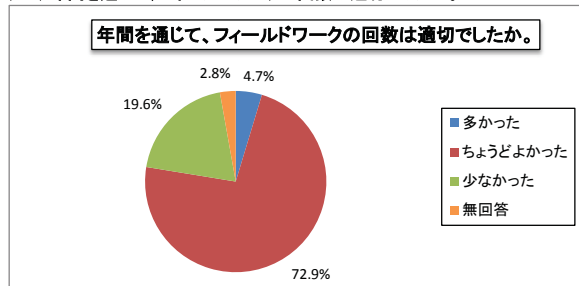
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



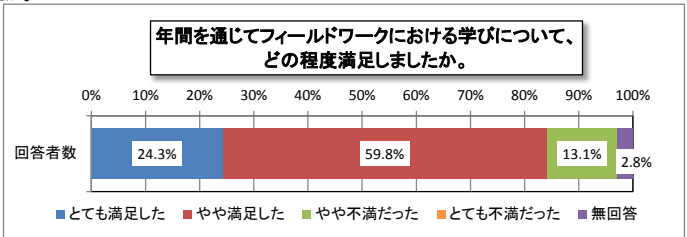
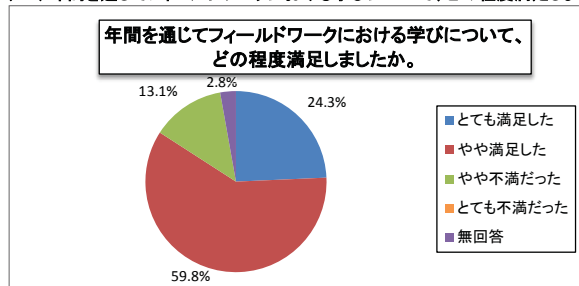
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新入教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



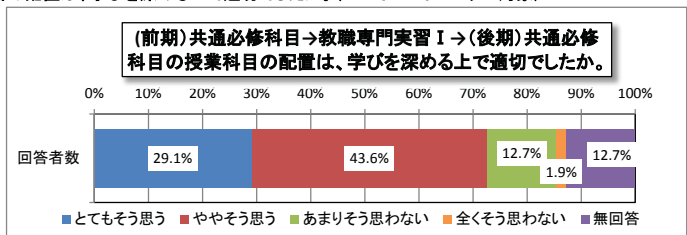
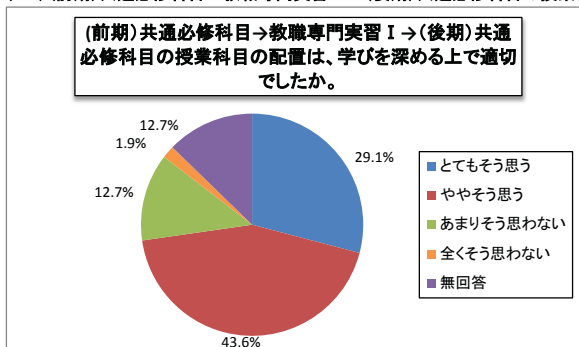
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。

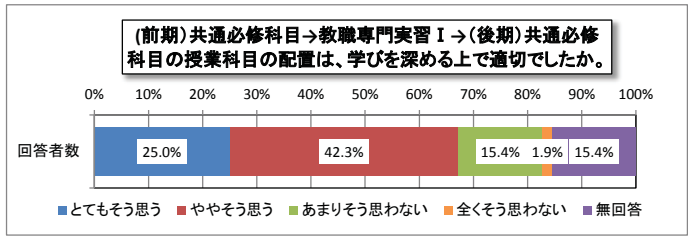
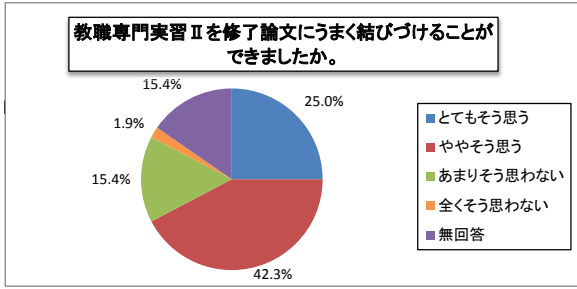


(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)

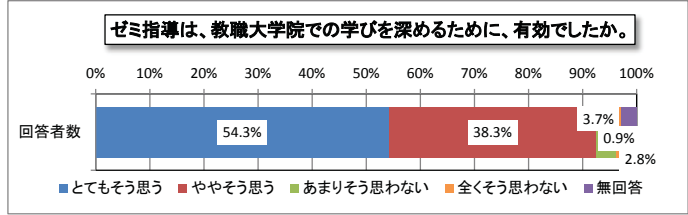
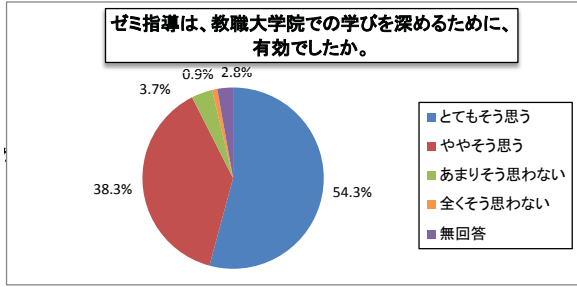


研究科アンケート(平成29年度 全体)

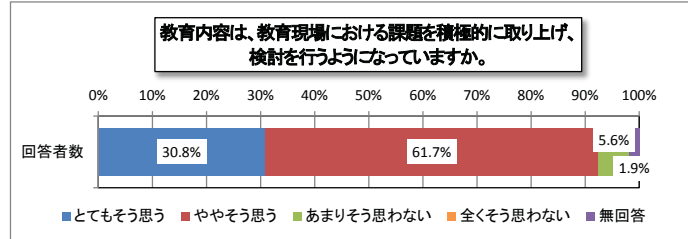
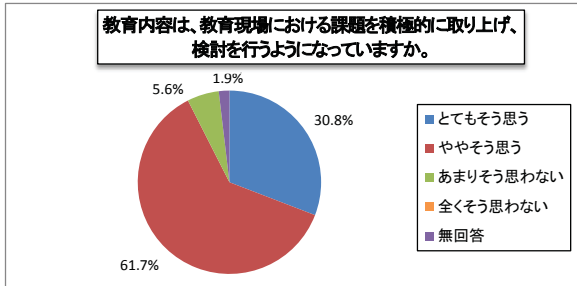
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びづけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



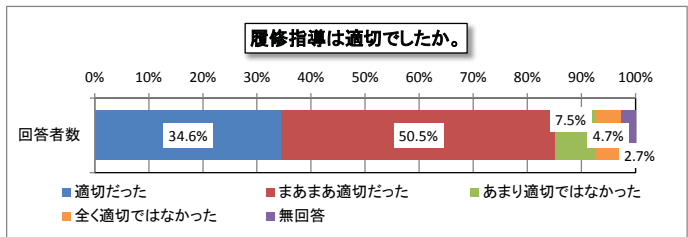
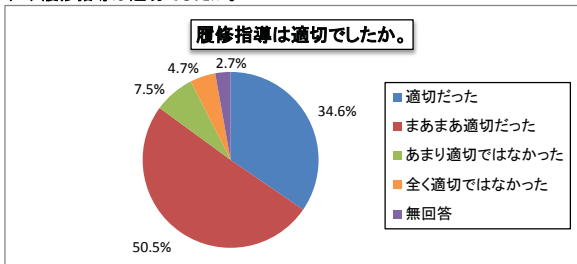
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



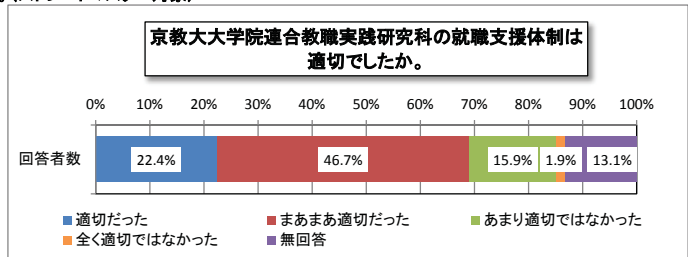
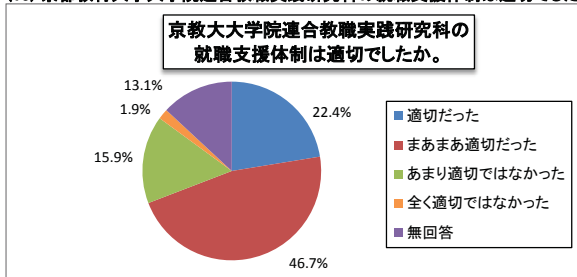
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。



(12) 履修指導は適切でしたか。

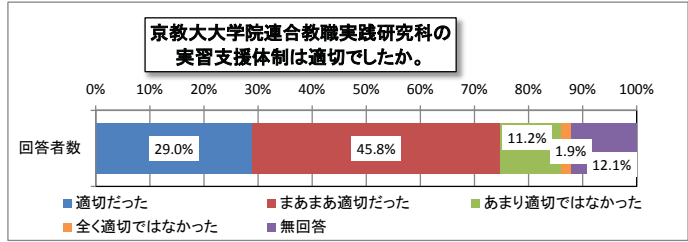
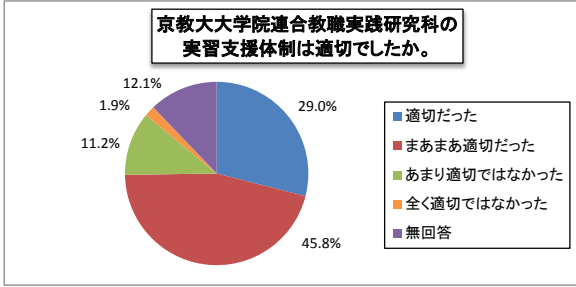


(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)

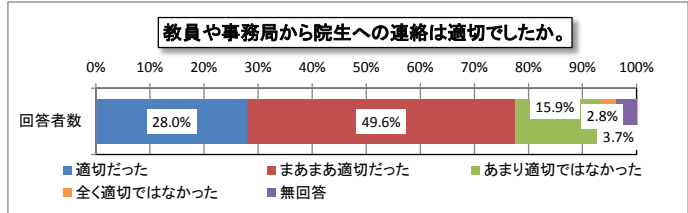
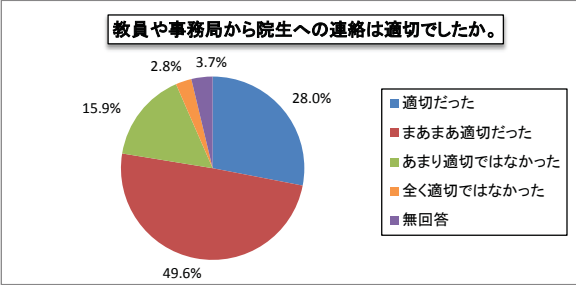


研究科アンケート(平成29年度 全体)

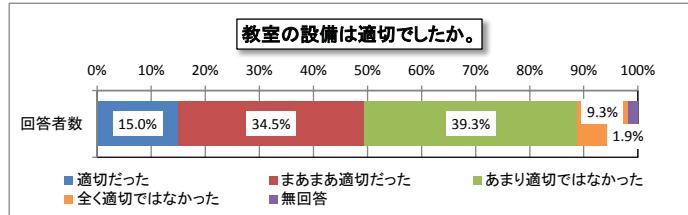
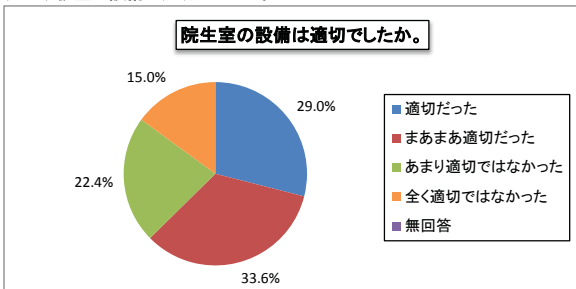
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



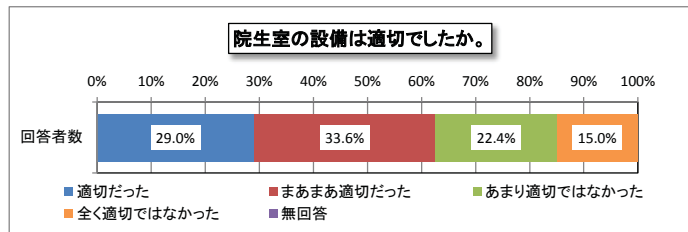
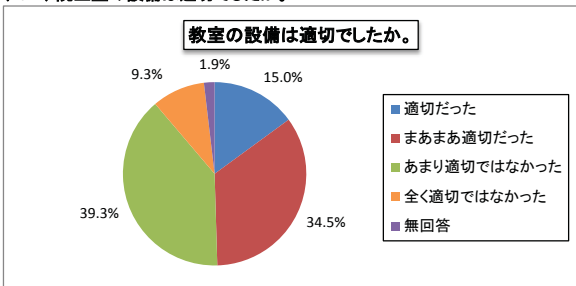
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



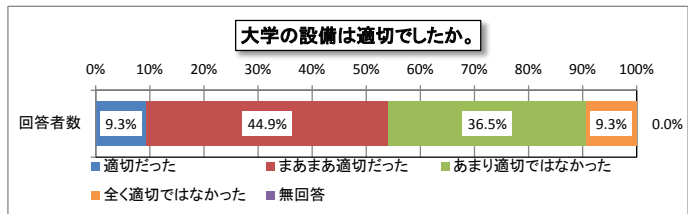
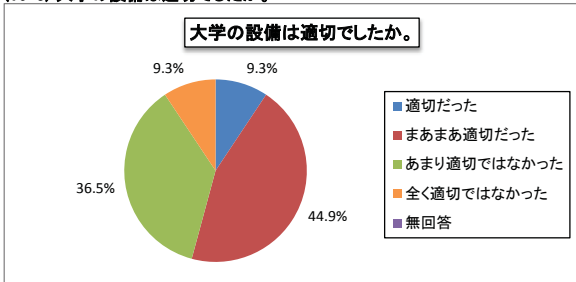
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。

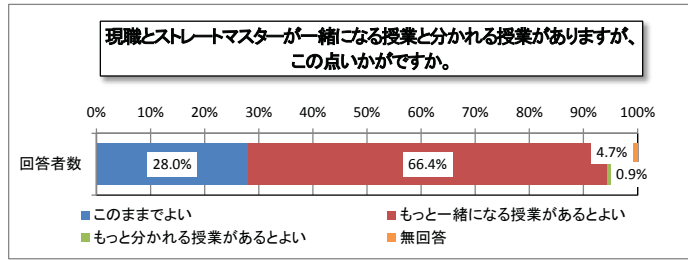
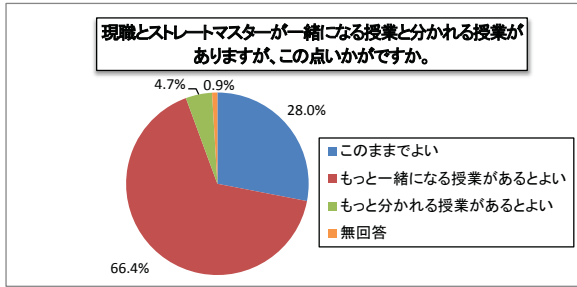


(16-3) 大学の設備は適切でしたか。

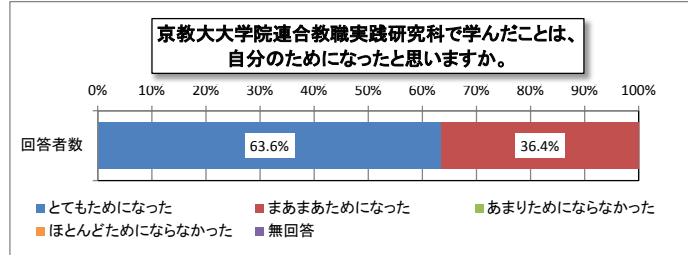
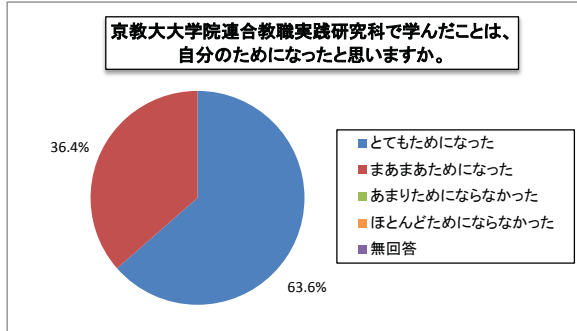


研究科アンケート(平成29年度 全体)

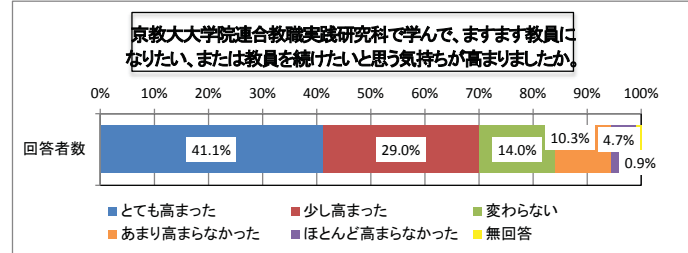
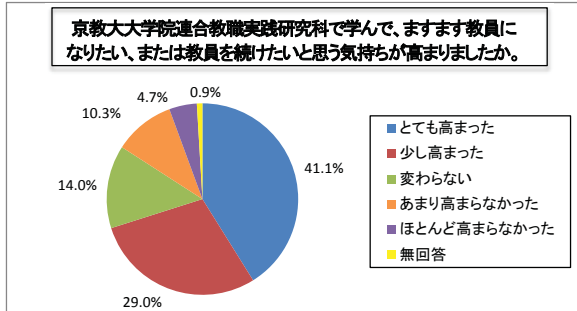
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



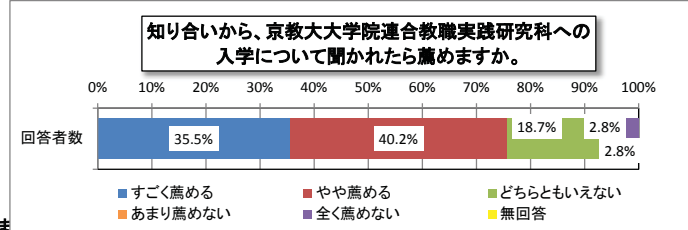
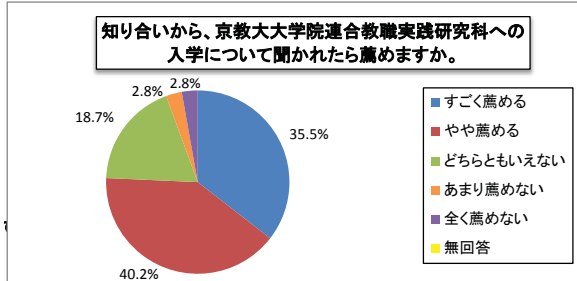
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

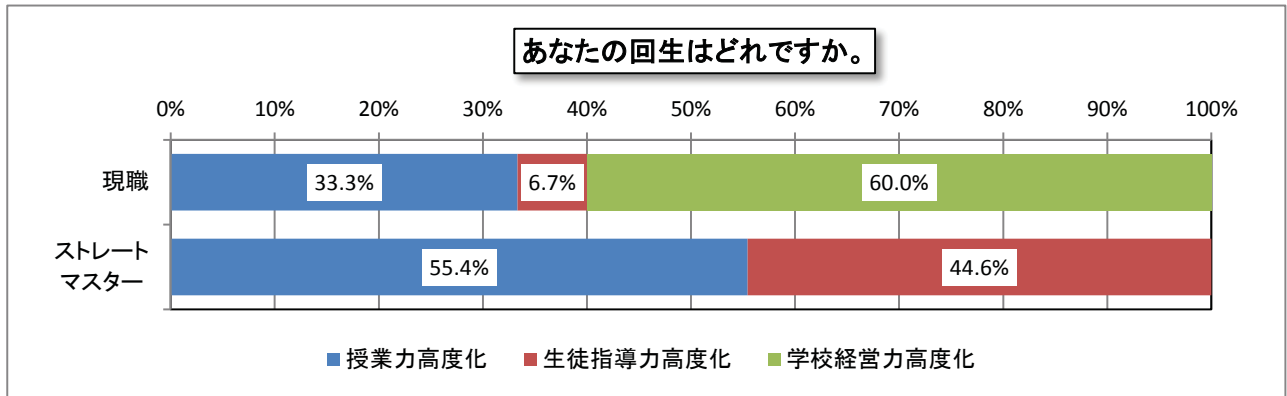


(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

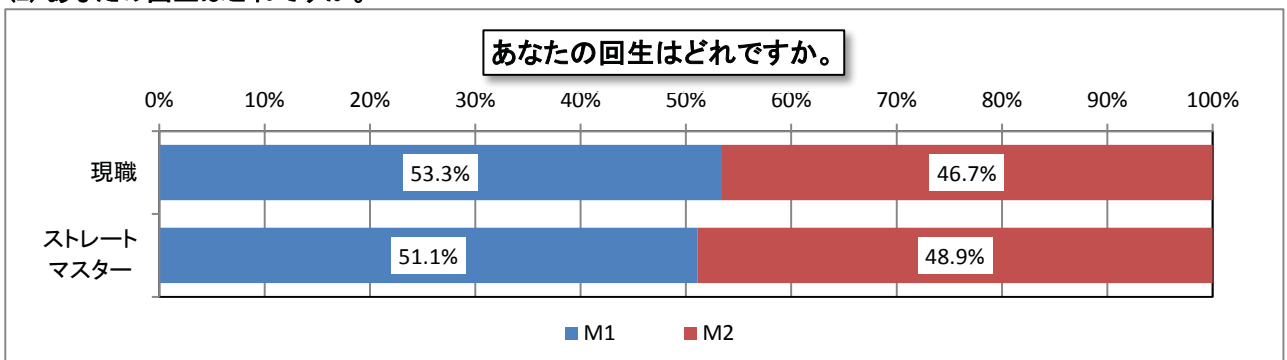


研究科アンケート(平成29年度 現職・ストレートマスター別)

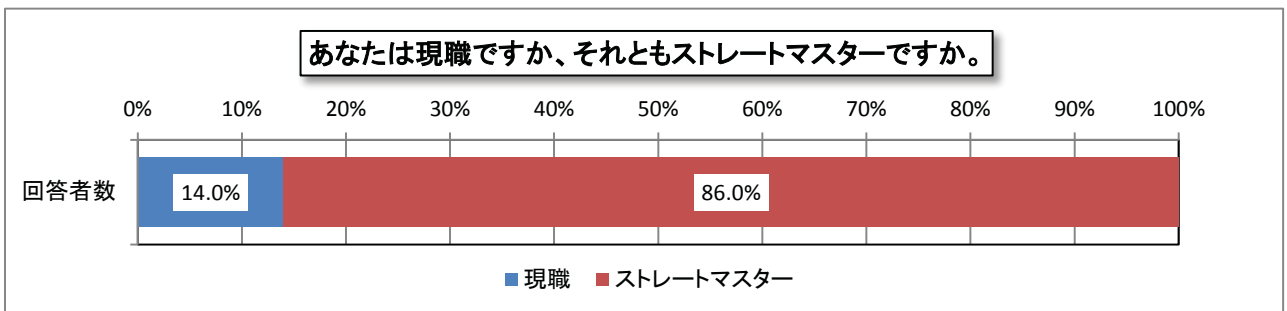
(1) あなたの所属はどのコースですか。



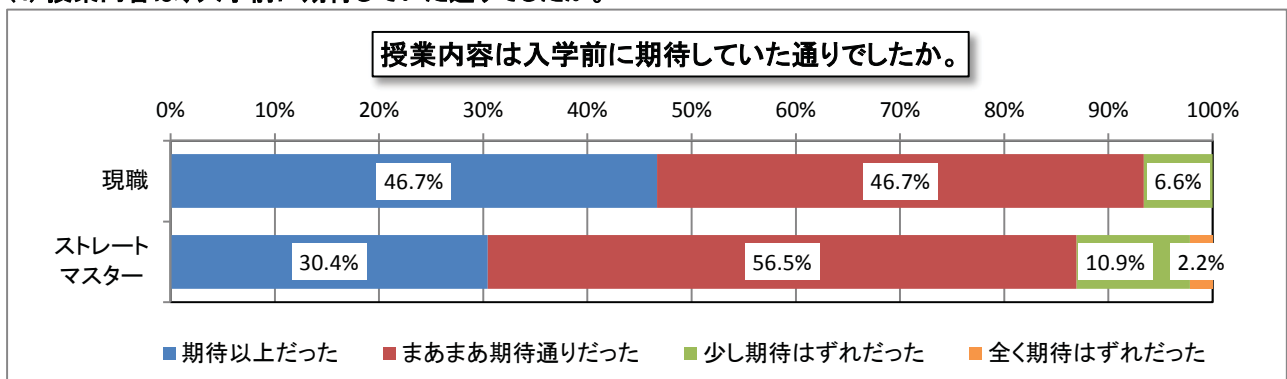
(2) あなたの回生はどれですか。



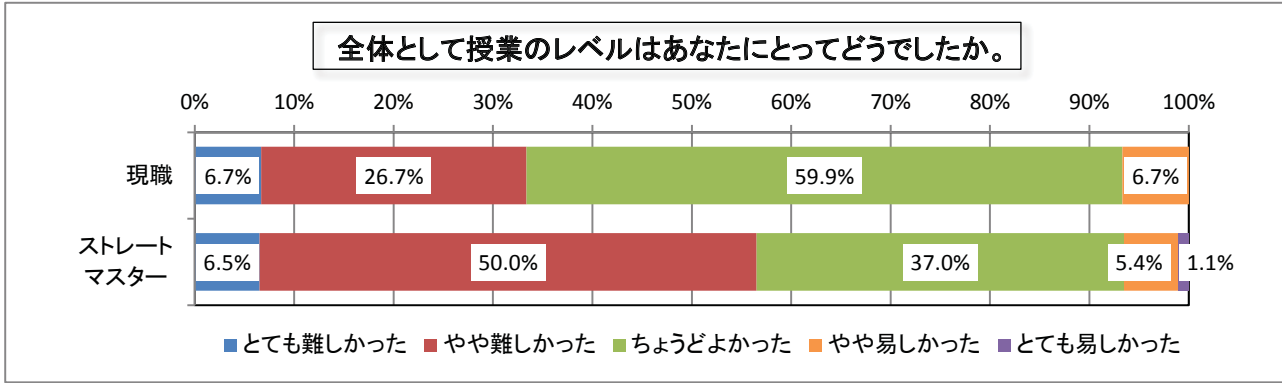
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



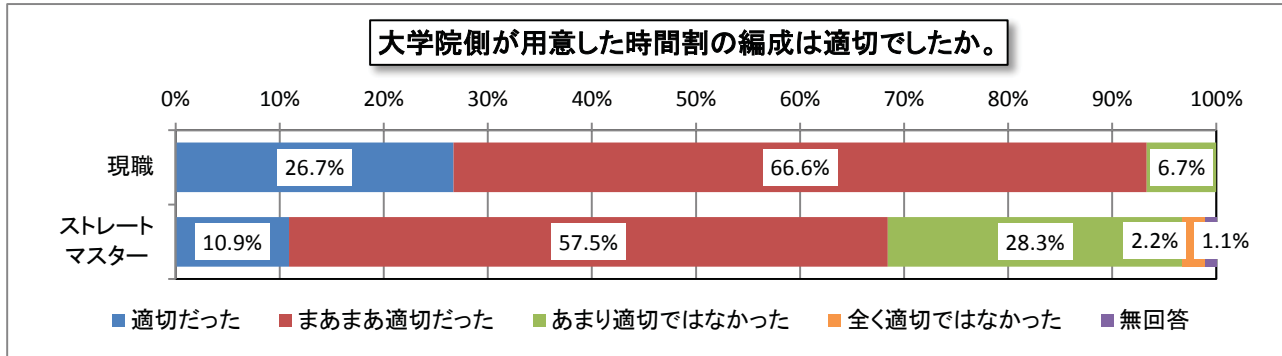
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



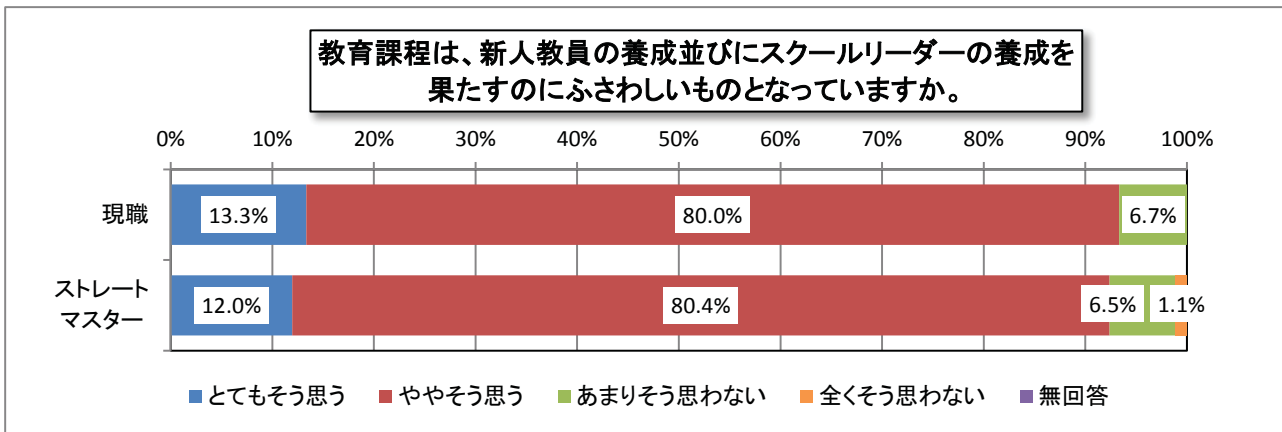
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



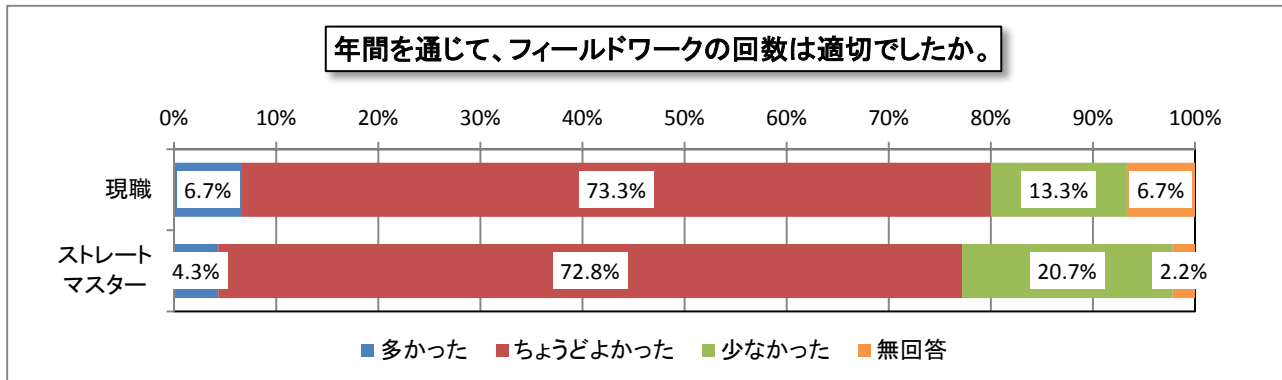
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



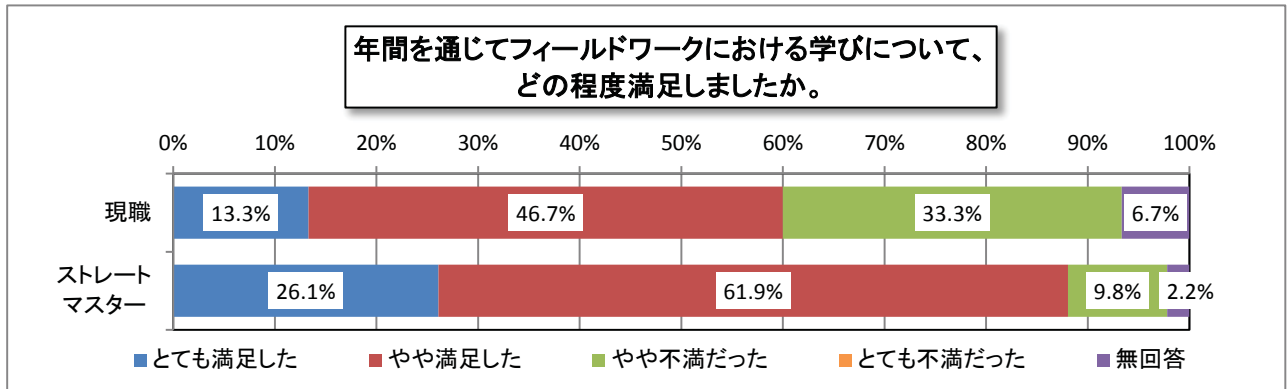
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



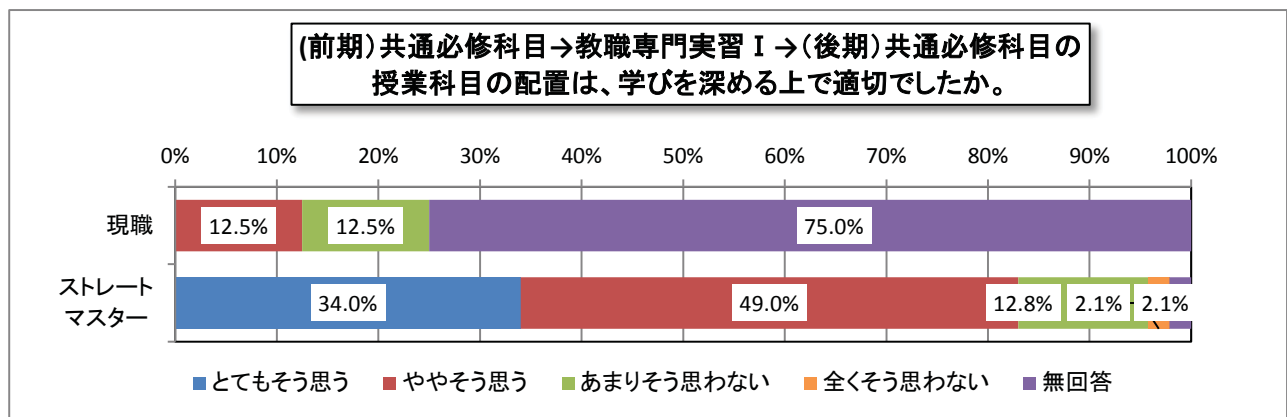
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



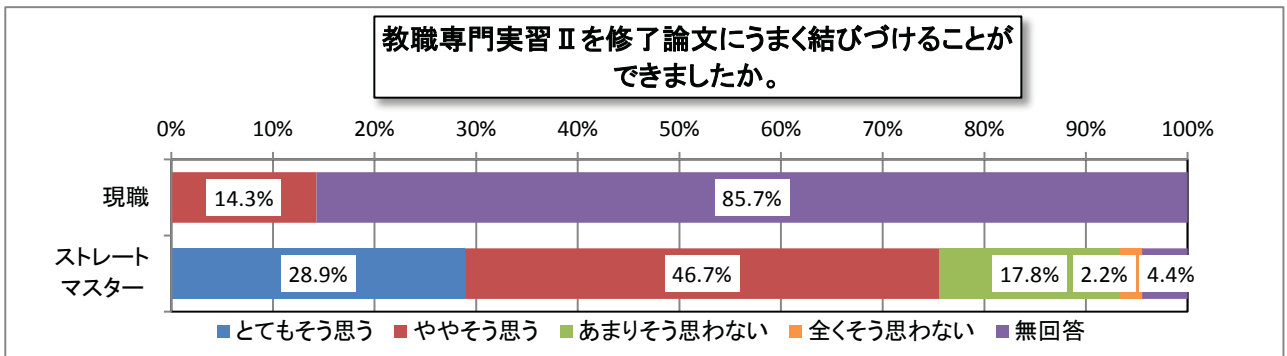
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



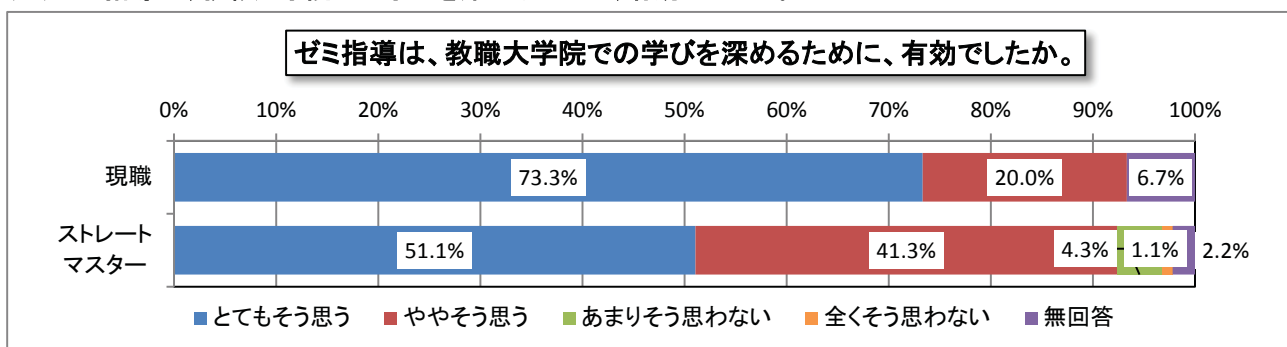
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



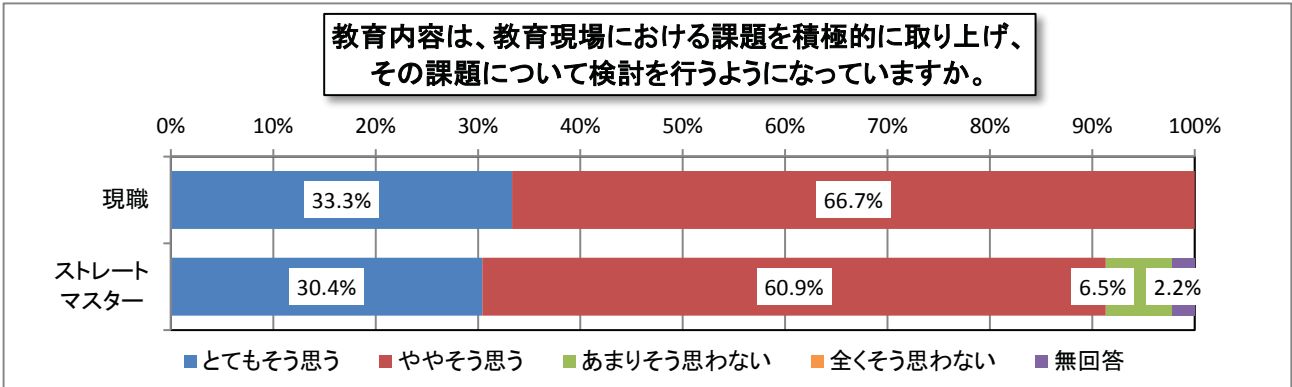
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



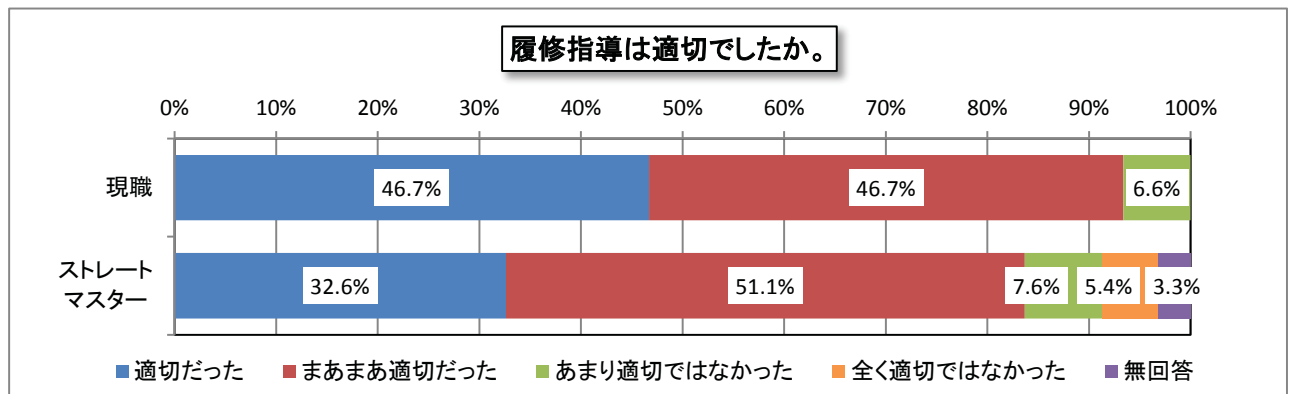
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



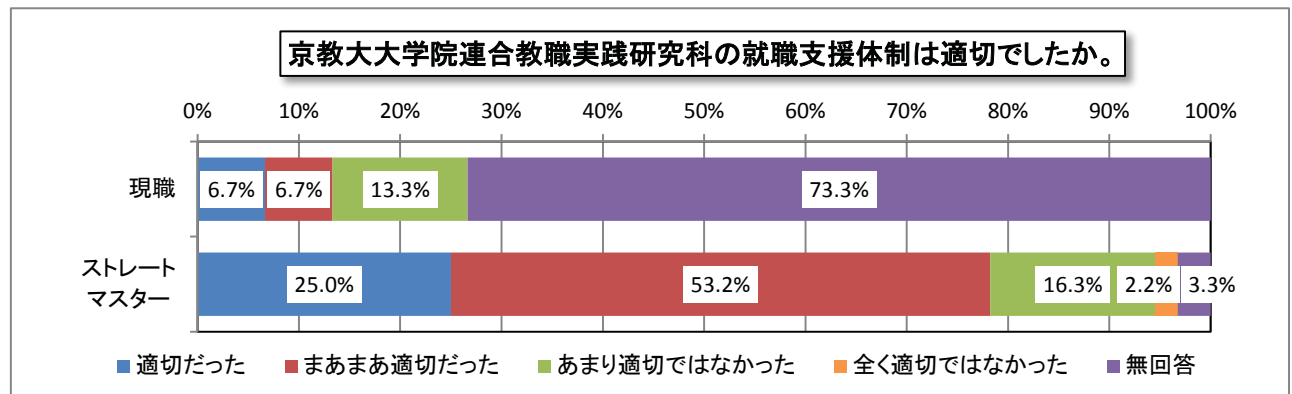
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。



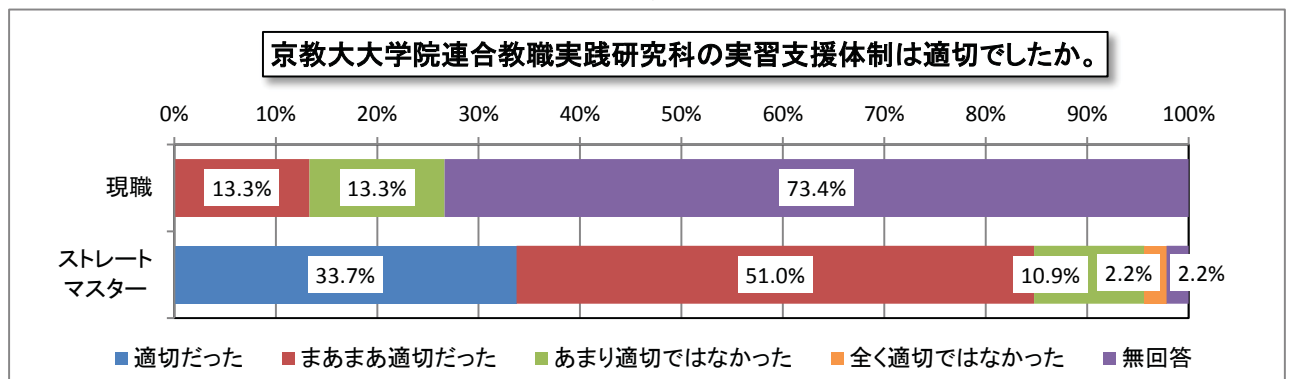
(12) 履修指導は適切でしたか。



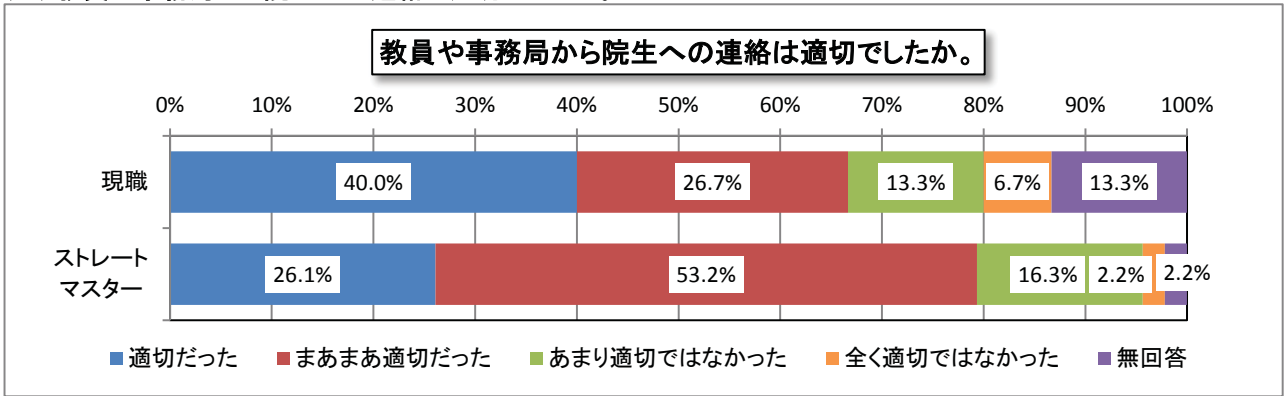
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



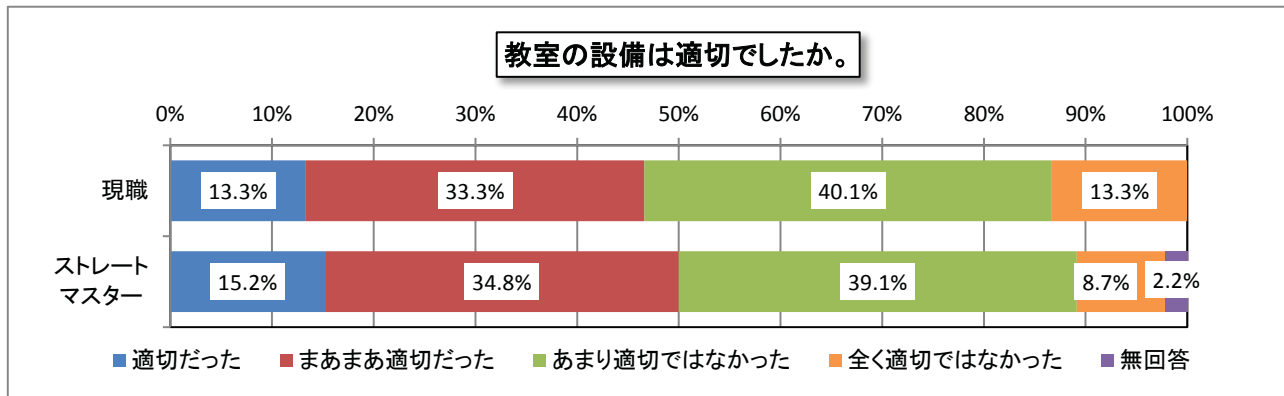
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



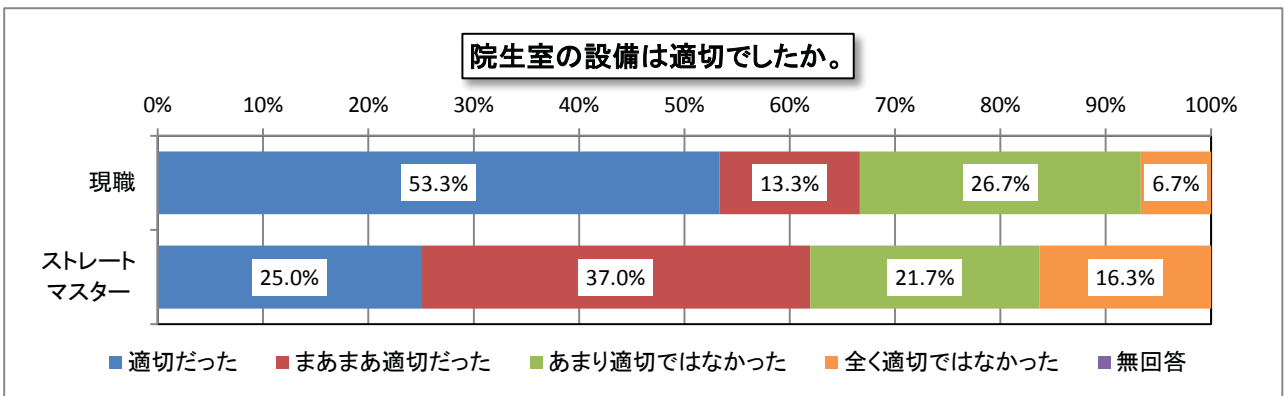
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



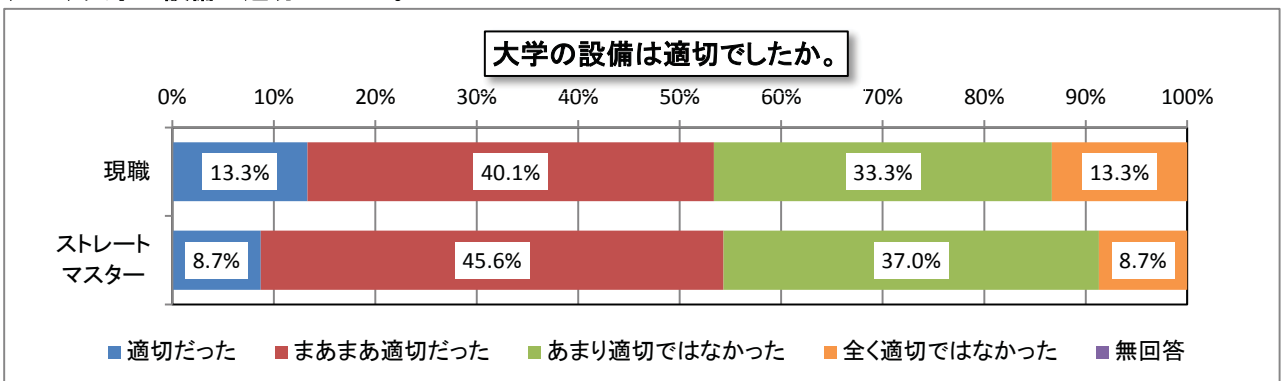
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。

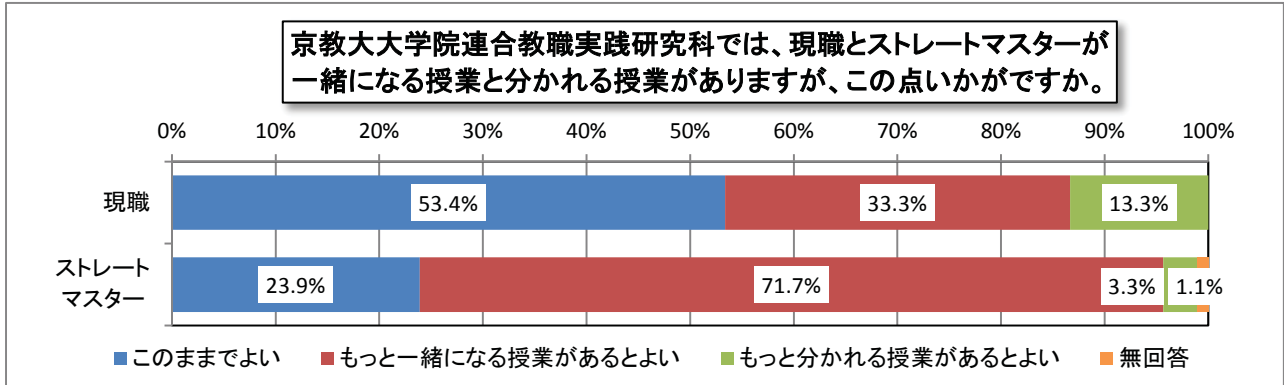


(16-3) 大学の設備は適切でしたか。

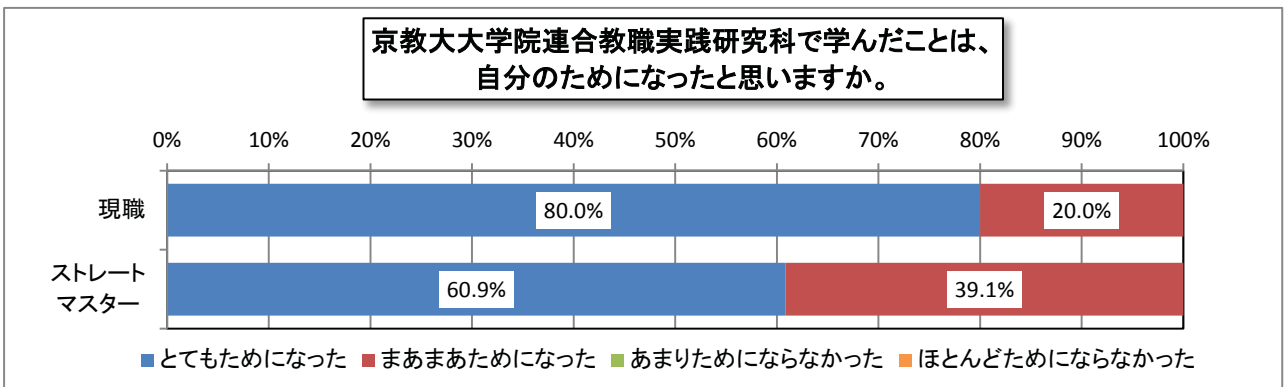


研究科アンケート(平成29年度 現職・ストレートマスター別)

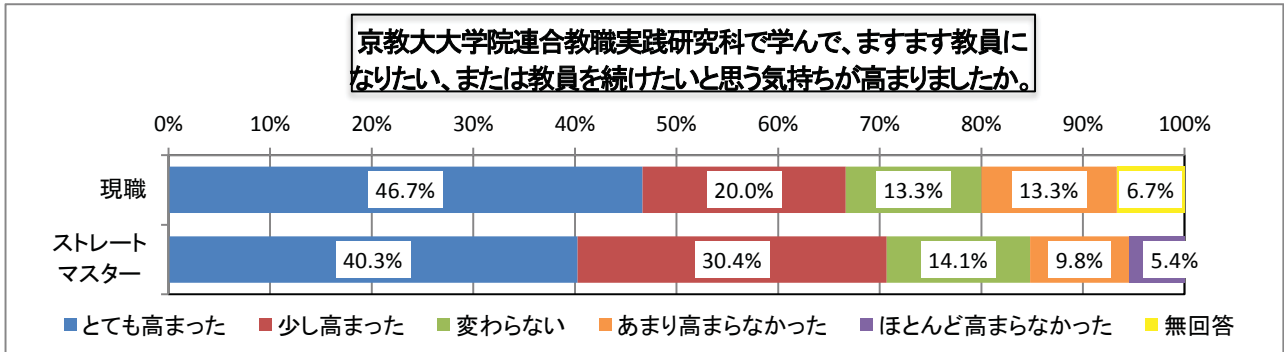
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



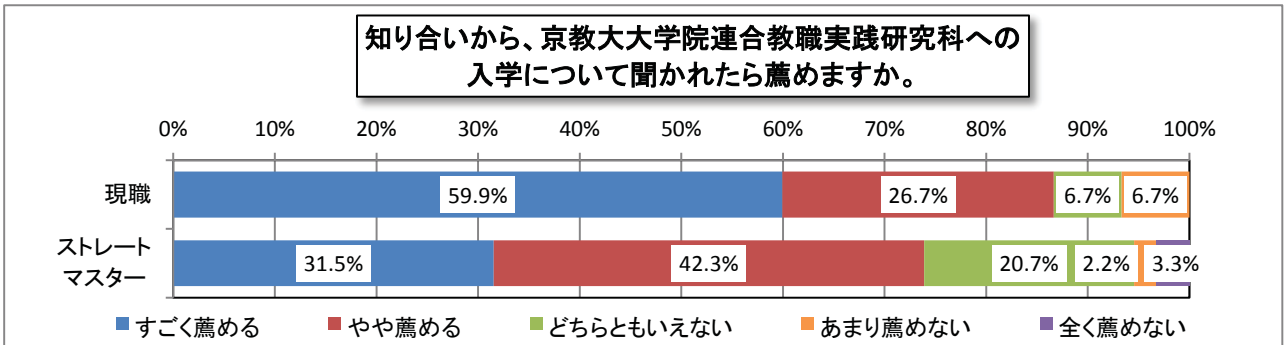
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

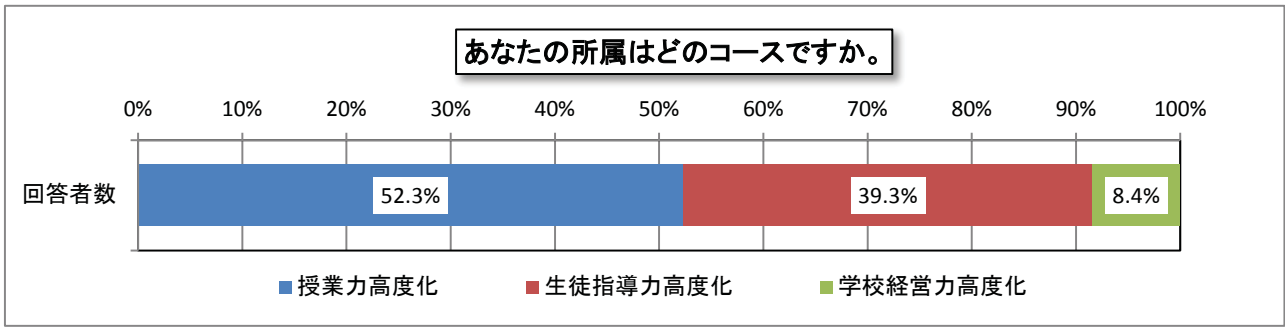


(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

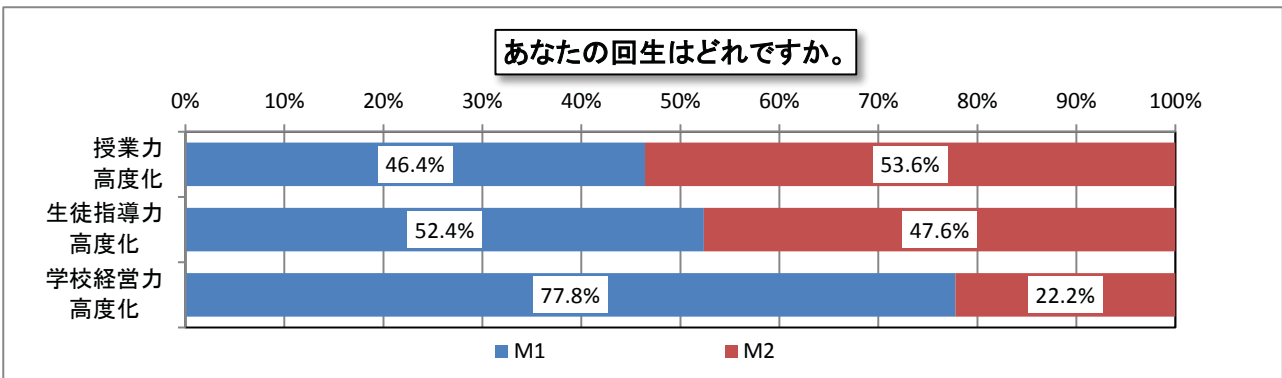


研究科アンケート(平成29年度 コース別)

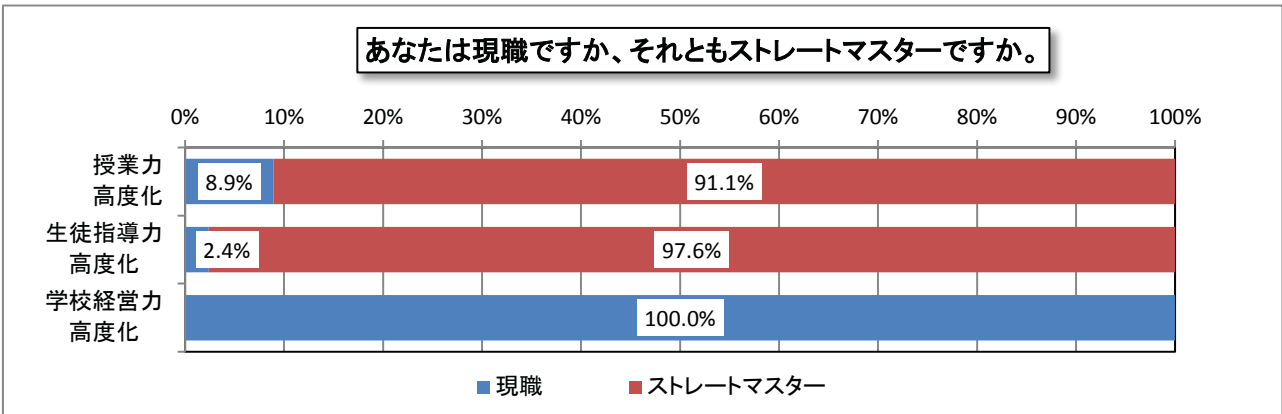
(1) あなたの所属はどのコースですか。



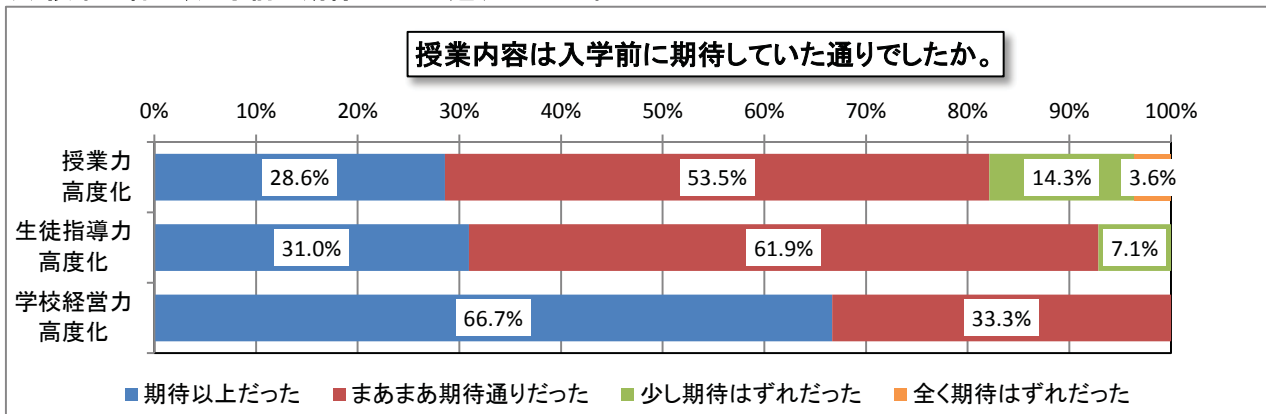
(2) あなたの回生はどれですか。



(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。

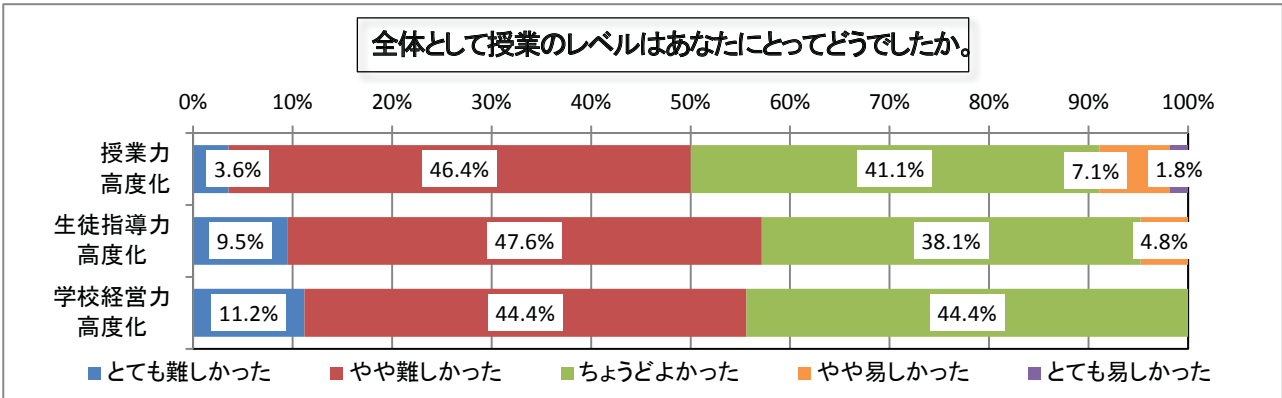


(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

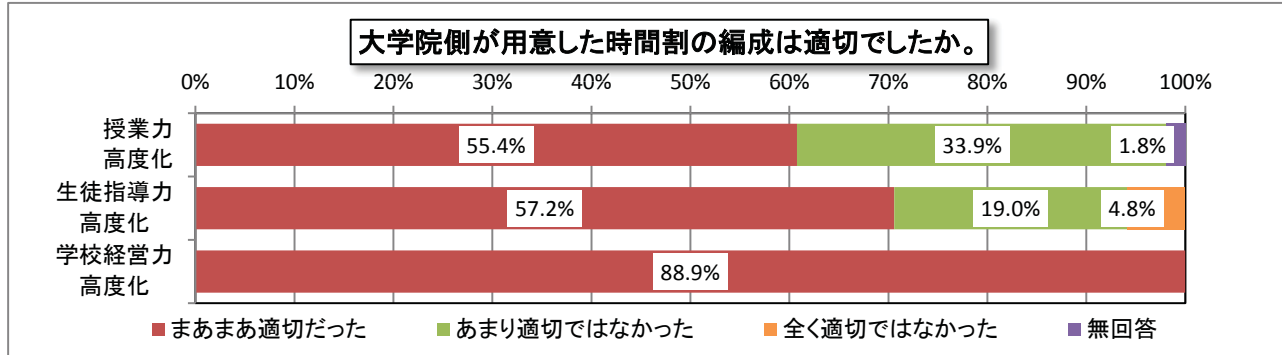


研究科アンケート(平成29年度 コース別)

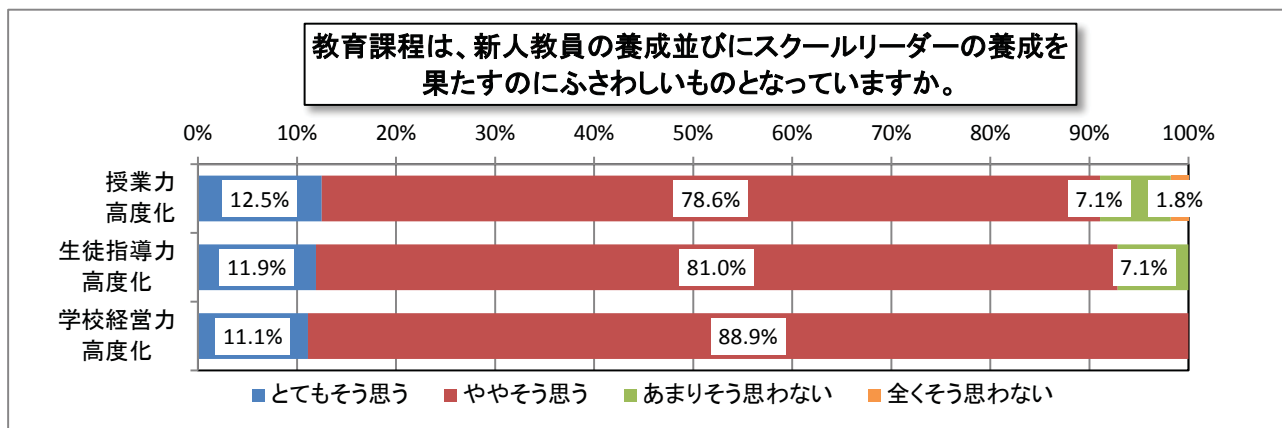
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



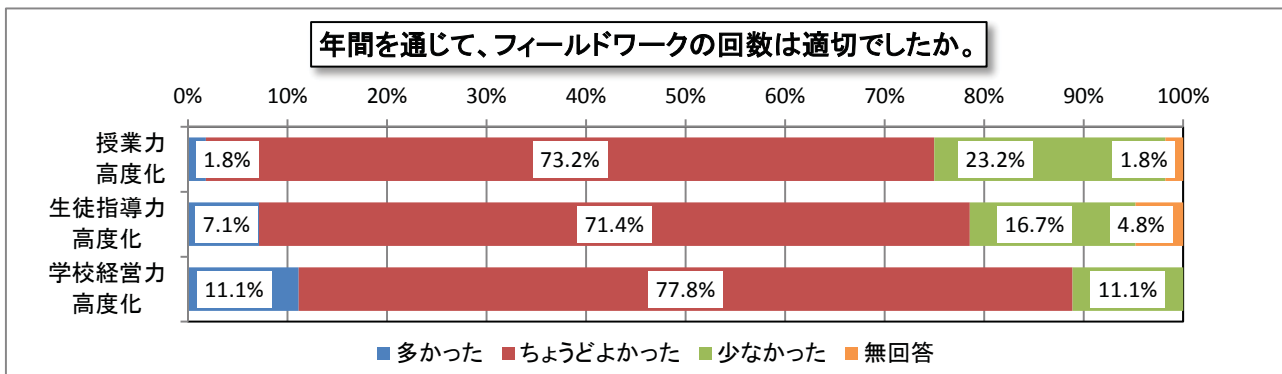
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

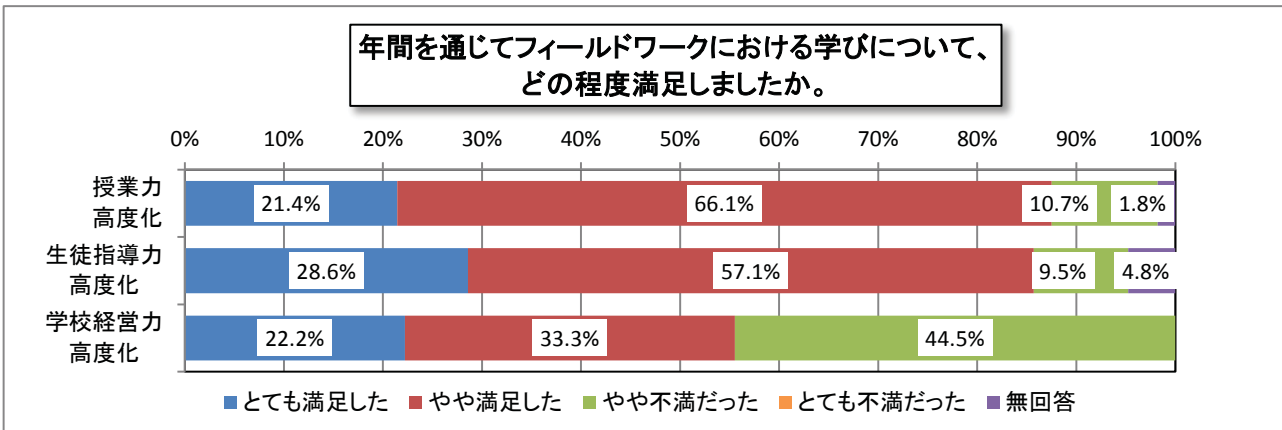


(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

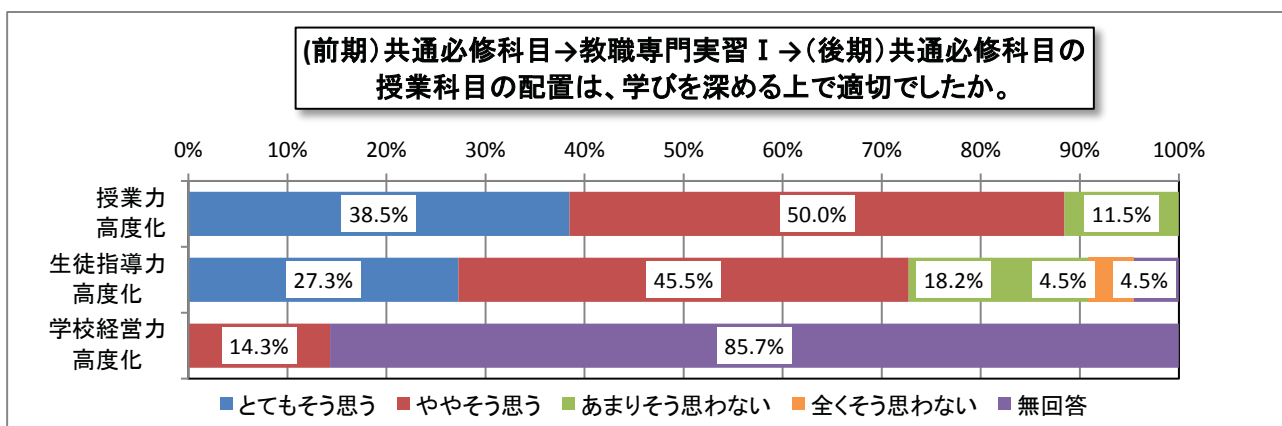


研究科アンケート(平成29年度 コース別)

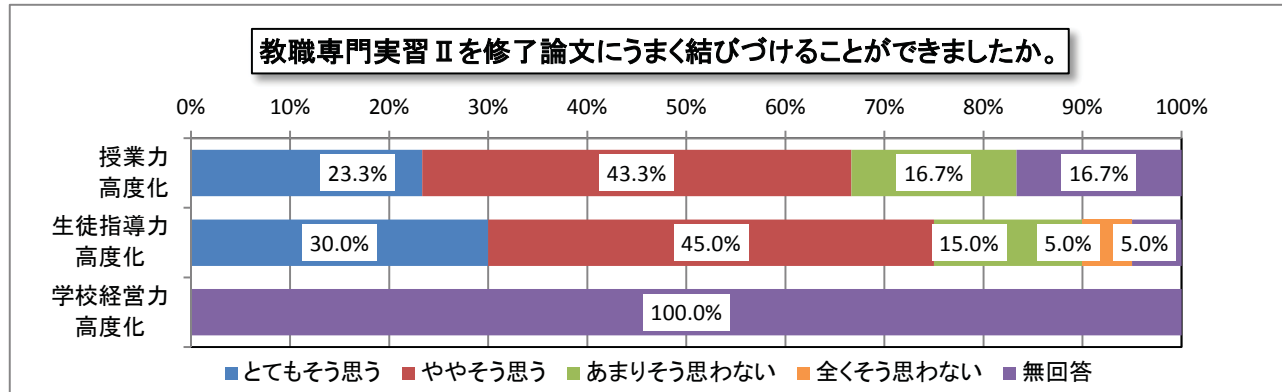
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



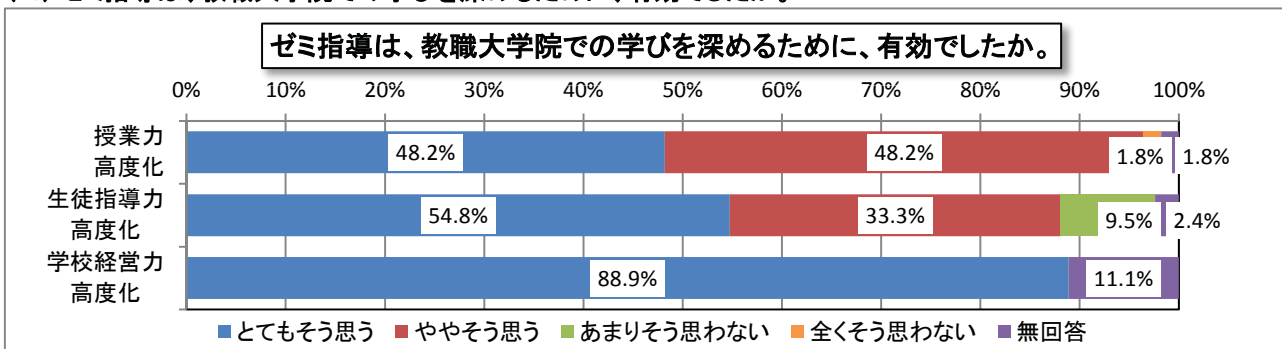
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)

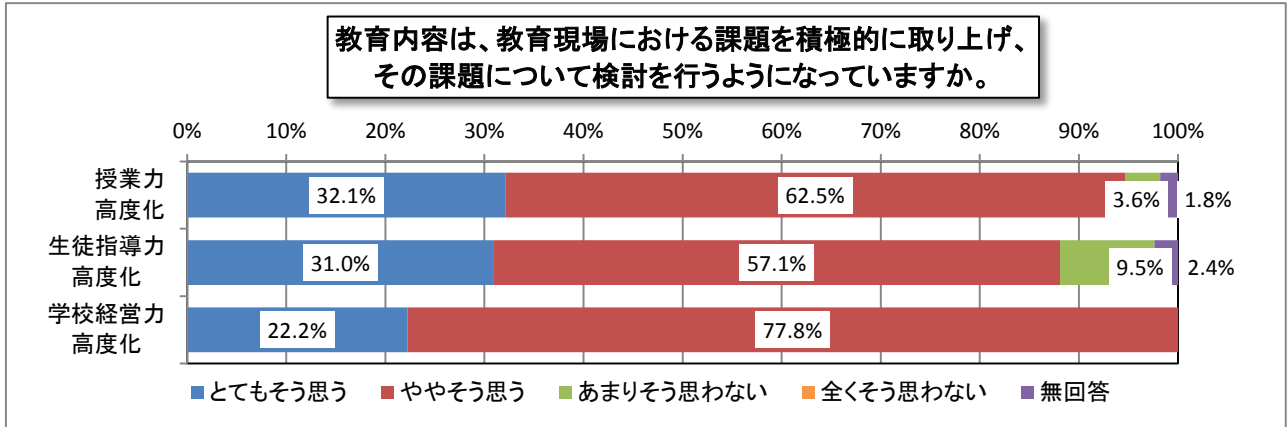


(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。

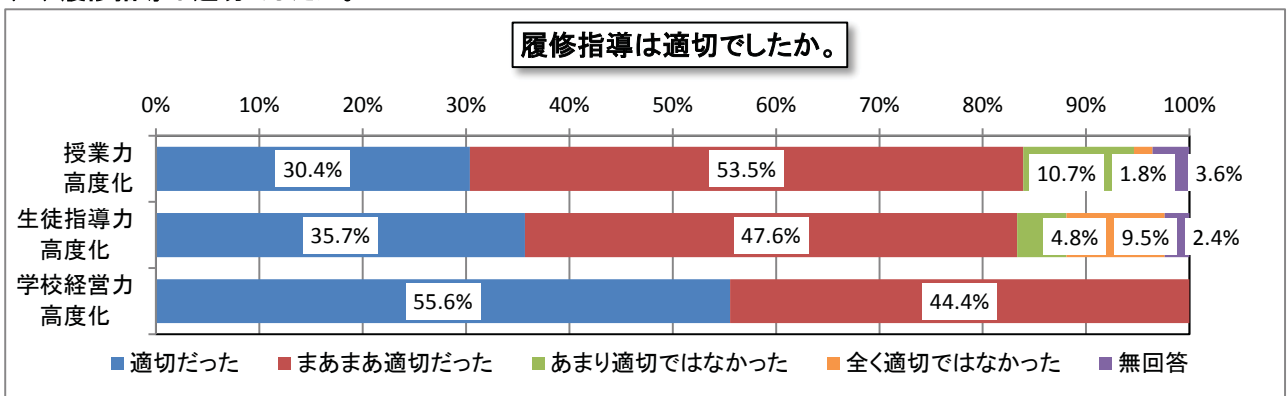


研究科アンケート(平成29年度 コース別)

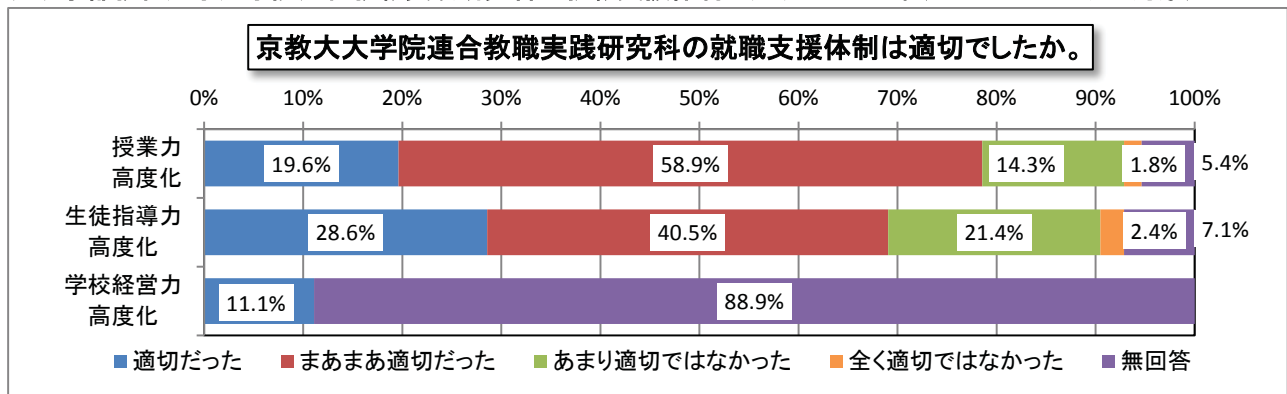
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。



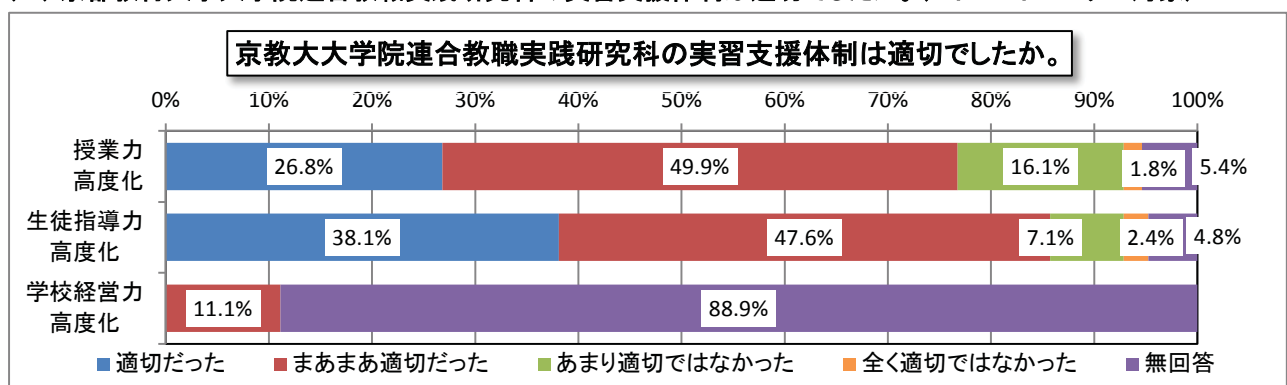
(12) 履修指導は適切でしたか。



(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)

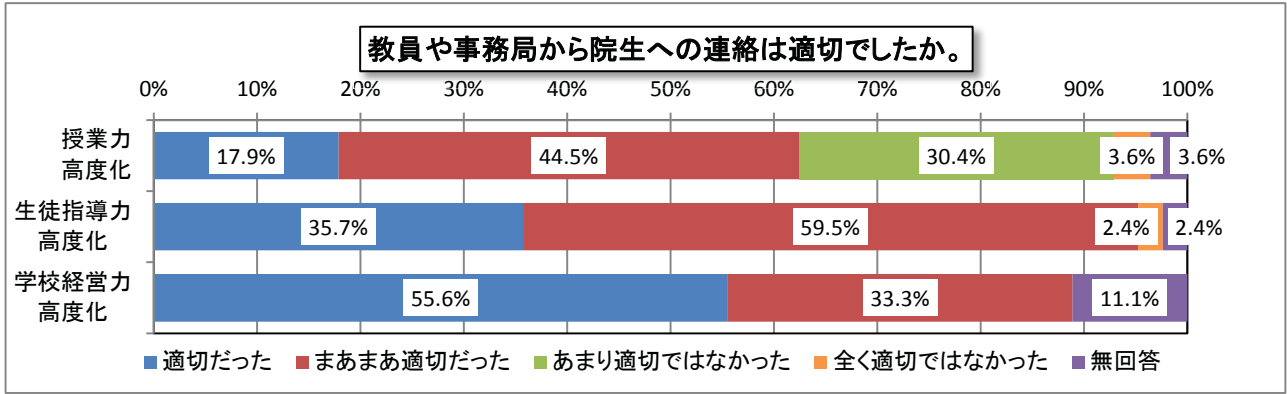


(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)

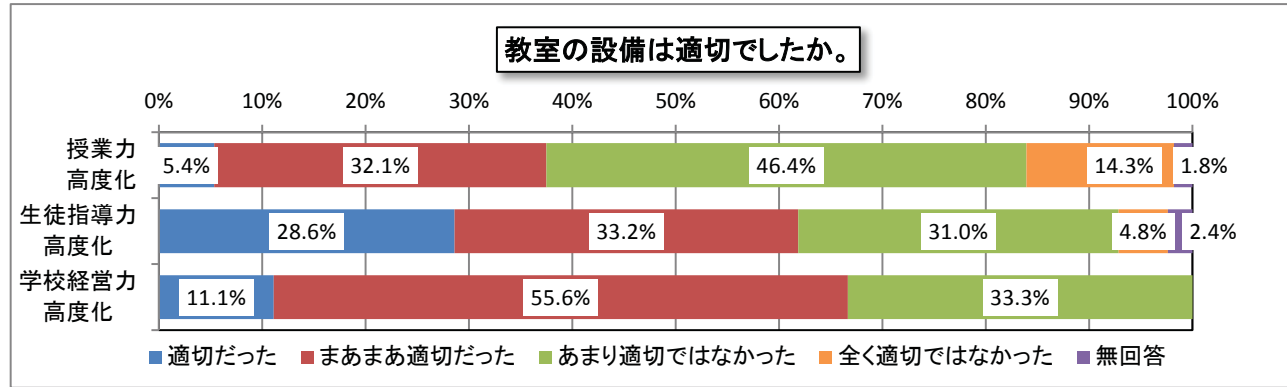


研究科アンケート(平成29年度 コース別)

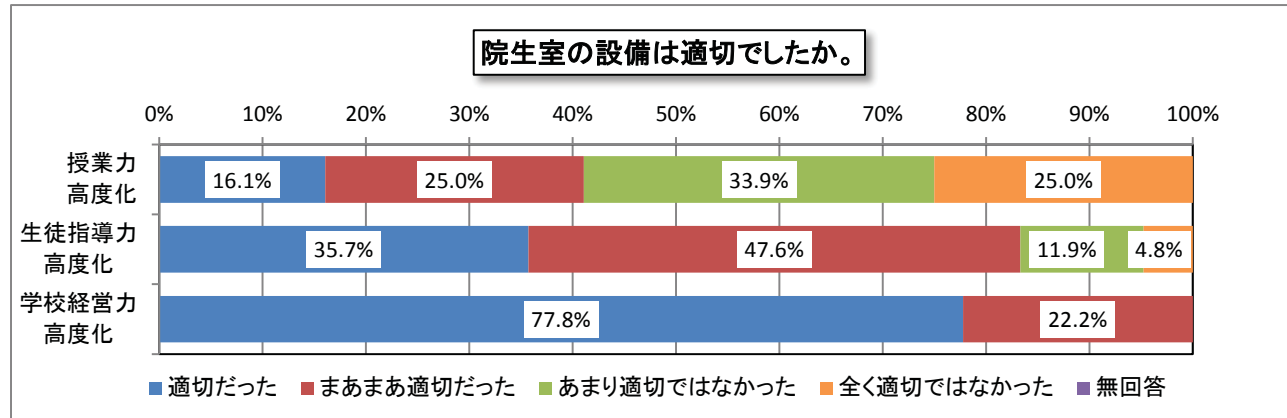
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



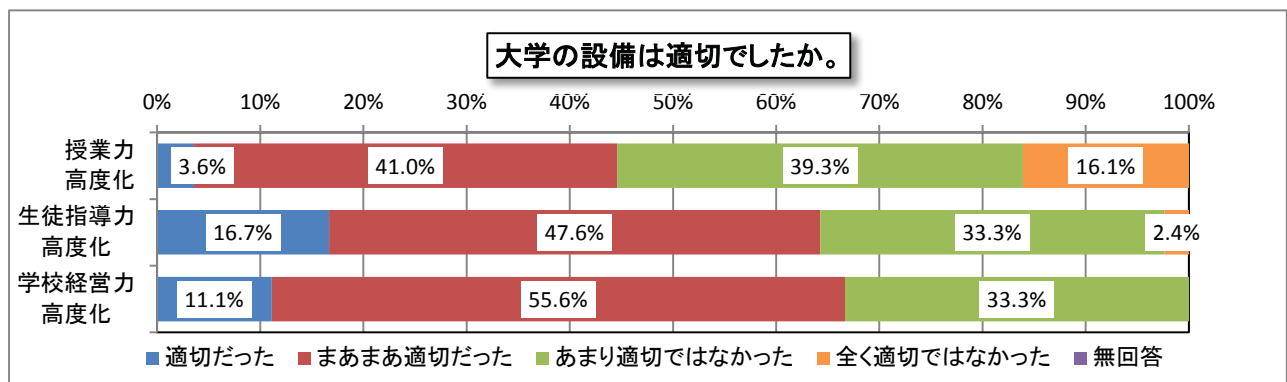
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。

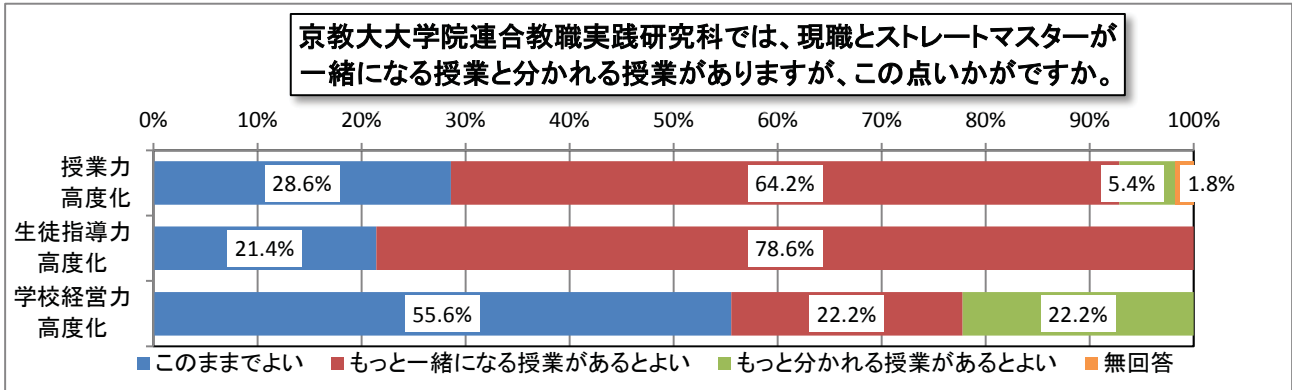


(16-3) 大学の設備は適切でしたか。

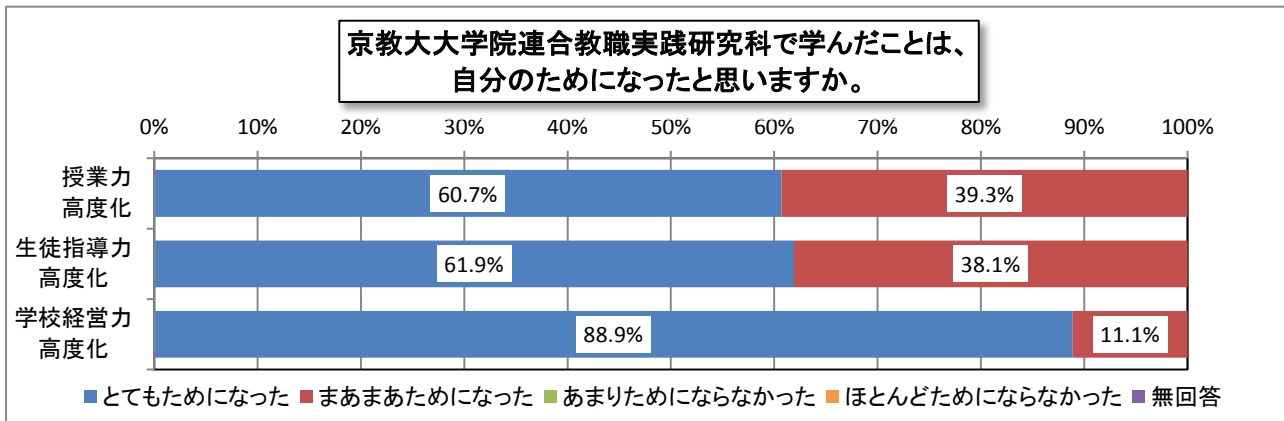


研究科アンケート(平成29年度 コース別)

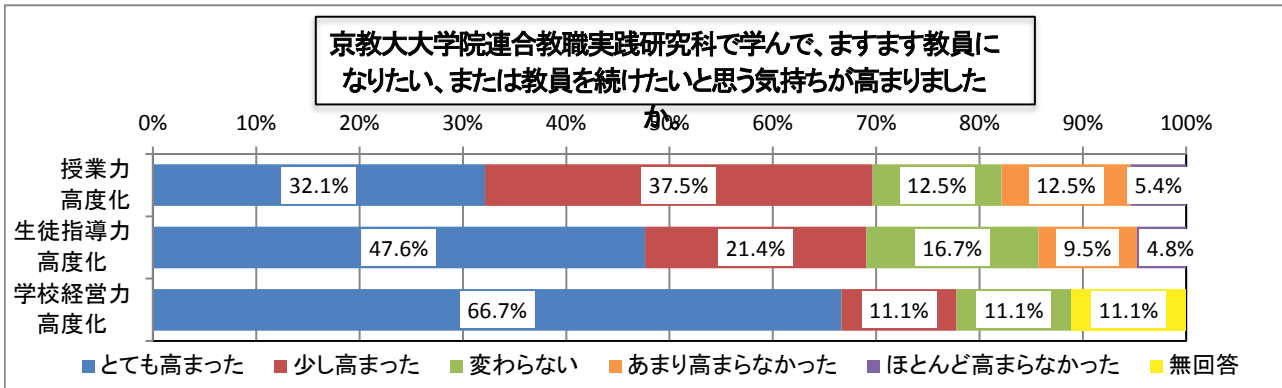
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

